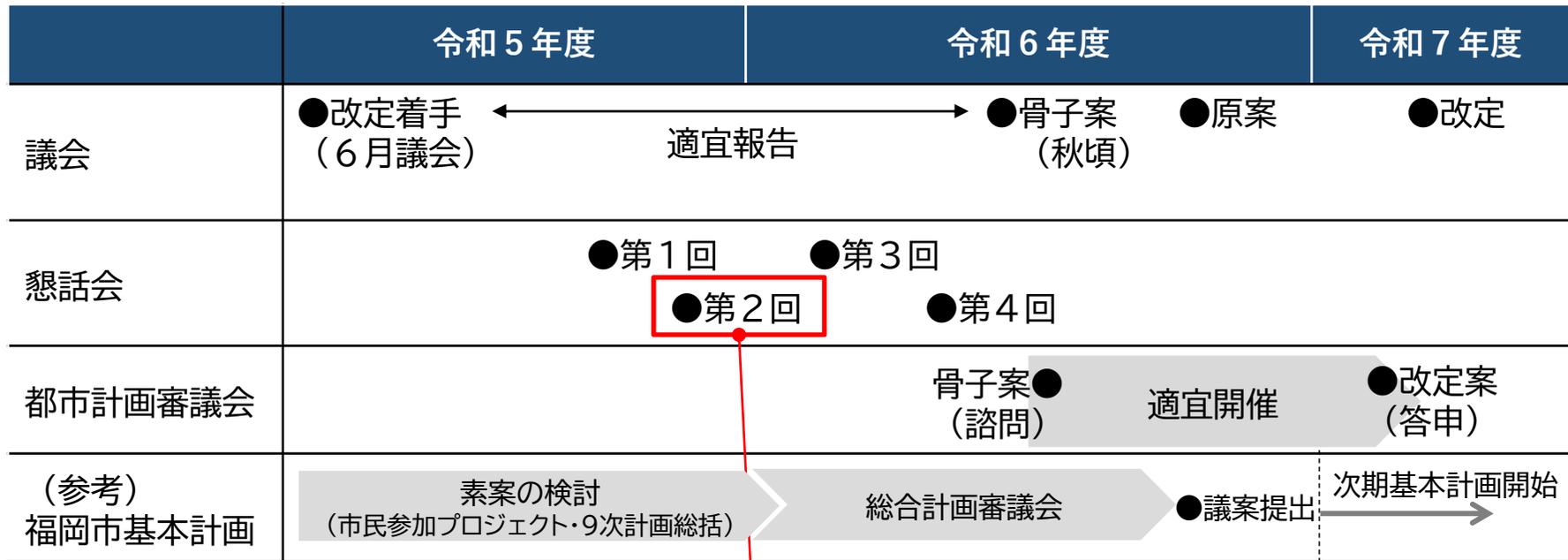


都市計画マスタープラン 第2回懇話会資料

福岡市住宅都市局

懇話会のスケジュール（予定）



開催	第1回	第2回	第3回	第4回
議事	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの都市づくり ○今後の都市づくりの視点・課題に関する意見交換 	<p>【事務局より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回の振り返り ○市民意見の概要 ○将来人口推計 ○福岡市基本計画(素案) <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上位計画などを踏まえ、今後の都市づくりの視点・課題など 	<ul style="list-style-type: none"> ○改定の方向性等に関する意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ○骨子案に関する意見交換

1. 第1回懇話会の振り返り

2. 市民意見の概要

3. 将来人口推計

4. 福岡市基本計画(素案)

5. 意見交換

1. 第1回懇話会の振り返り

2. 市民意見の概要

3. 将来人口推計

4. 福岡市基本計画(素案)

5. 意見交換

第1回懇話会での主な意見

参考資料① 参照

都心部等のまちづくり

- ・この10年間で、天神ビッグバンなどの計画が進み、福岡市が躍動する姿を見せている。
- ・道路の歩行空間を広げるような、都市アセットのリ・デザインなどの視点も必要。

歴史・文化資源の保全・活用

- ・博多、天神の魅力は歴史の重層性や多様性にあり、歴史・文化のマネジメントを考えるべき。
- ・歴史的に価値のある建物が生まれてくるような仕組みづくりが重要。

自然資源の保全・活用

- ・これまでの取組みを継承しつつ、今後は緑の質の向上がポイント。
- ・生物多様性の観点から、（在来種への配慮など）外来種への対応について検討が必要。

人口増加・減少

- ・将来的な人口減少に備え、マンション建替え促進などにより、当面の人口増加を鉄道沿線等で受け入れる取組みなどが必要。
- ・人口の増加と減少をあわせて考えるなど、九州や都市圏における福岡市の位置づけを人口動向などの視点でも整理することが大事。

少子高齢化

- ・少子化に対応する観点からも、若者が暮らしやすいまちづくりの検討が必要。

第1回懇話会での主な意見

脱炭素社会の実現

- ・市全体のエネルギー消費量は下がっているが、古い建物は残るため、**断熱改修などの誘導**が必要。
- ・交通は炭素排出の約3分の1を占めており、**交通の更なる効率化**が必要。

安全・安心な暮らし

- ・大雨による**内水氾濫等**に対し、**郊外部の浸水対策**や都市内の**農地や遊水池の確保**などが求められる。
- ・**地震**についてはこれまでの**取組みを継承**して、引き続き、しっかりと取り組んでいく必要がある。
- ・**災害**における**レジリエンス**の観点では、**コミュニティのつながり**が重要。

地域まちづくり

- ・市民目線の**ウェルビーイング**や**産官学民による共働**という視点でもまちづくりを考える必要がある。
- ・街がどう変わるのかという**イメージ**を**模型やCG**などで**市民に分かりやすく見せられる**と良い。
- ・**データに基づいたまちづくり**など、**DX**をまちづくりに活用していくことが重要。

その他

- ・**九大伊都キャンパスやアイランドシティ**といった**活力創造拠点**のように、**イノベーション**などを**推進する地区**をどう**位置付けるか**を考えておくべき。
- ・福岡市は**第二次産業**が発展しておらず、**理系の雇用**を生むような**土地利用**は考えておくべき。
- ・**観光資源の創出**に**民間活力**を活用できるような**仕組みづくり**も考えておくべき。
- ・**定住外国人の増加**も重要な視点。

1. 第1回懇話会の振り返り

2. 市民意見の概要

3. 将来人口推計

4. 福岡市基本計画(素案)

5. 意見交換

「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」の概要

参考資料② 参照

実施期間

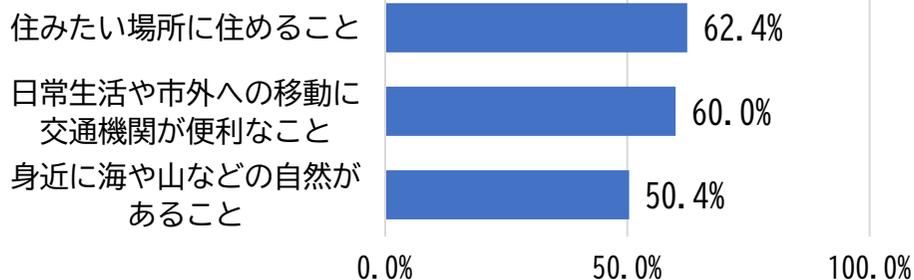
令和5年4月25日～10月31日（ワークショップ等については11月末まで）

実施内容

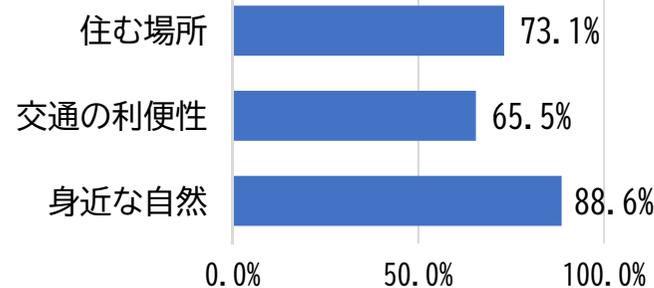
- (1) オンラインアンケート
- (2) メールや郵送等による意見の受付
- (3) 外国からの来訪者へのアンケート
- (4) ワークショップ
- (5) ゲームを活用した取組み
- (6) 小中学校での意見募集
- (7) 有識者インタビュー
- (8) 民間主導の取組み

オンラインアンケートの結果概要（回答件数8,242件）

◆「あなたにとっての幸せな未来のために特に大切なこと」の選択割合



◆選択した項目の現在の満足度（満足+やや満足の割合）



◆福岡市や自分自身の未来についての自由記述意見（延べ3,315件）

ユニバーサルデザイン、健康、福祉	504 件
子ども、教育	652 件
文化芸術、スポーツ	160 件
地域コミュニティ	86 件
防災、都市基盤	161 件
防犯、モラル・マナー	155 件

環境、自然	158 件
交通	445 件
経済振興、都心部	299 件
国際	59 件
その他	636 件

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

経済振興、都心部（299件）

◆企業誘致、雇用創出、働き方

- ・日本で最も新しいビジネスが集まる場所（40代・城南区）
- ・有力な企業が誘致され、故郷を捨てずに活躍できる環境（30代・早良区）
- ・理系で勉強した子どもたちが働く場所の充実（50代・城南区）

◆観光、レジャー施設、商業施設

- ・福岡を象徴するランドマークがほしい（20代以下・中央区）
- ・商店街は残してほしい（40代・中央区）

◆都心部

- ・誰もが利用できる都会のオアシスみたいな緑多い場所（70代以上・中央区）

など

国際（59件）

◆国際化、共生

- ・世界の人々が来てよかった、住んでみたいと思えるまち（40代・中央区）

など

文化芸術・スポーツ（160件）

◆文化芸術

- ・音楽やアートなどの芸術が街中で楽しめる（40代・南区）
- ・コンサートホール、ライブハウス、大中小の会場（40代・中央区）

◆スポーツ

- ・自由に気軽にスポーツを楽しめる施設をたくさん作ってほしい（40代・西区）

など

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

交通（445件）

◆総論

- ・市内隅々、交通の不便さの不平等を少しでもなくしていく福岡市（70代以上・東区）
- ・鉄道のネットワークを、もっと充実させてほしい（50代・西区）
- ・バスの本数を増やしてほしい（60代・早良区）
- ・自宅から最寄りの駅までのアクセスが近い（50代・博多区）
- ・高齢者が「運転しなくてもよい」と思えるような環境づくり（50代・中央区）
- ・交通機関のタッチ決済を普及させてほしい（20代以下・南区）
- ・公共交通の混雑緩和が必要（20代以下・博多区）
- ・市内中心部への交通流量の減少に向けた対策（40代・南区）

◆各論

- ・南区にも地下鉄を通してほしい（50代・南区）
- ・地下鉄の姪浜駅と橋本駅を繋げてほしい（50代・西区）
- ・ドームや国際会議場へのアクセス（50代・城南区）
- ・アイランドシティへの交通の便をもっと便利に（30代・東区）
- ・空港の国際線に地下鉄で行けるようにしてほしい（40代・中央区）

など

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

基本方向3

都市基盤を活用した地域の核となる
拠点機能の強化

地域コミュニティ（86件）

◆コミュニティ

- ・高齢者や子育て世帯が孤立せず、安心して暮らせる地域コミュニティ（50代・西区）
- ・公民館を中高生の自習や高齢者の買い物など便利に使えるように（40代・博多区）

など

基本方向4

高齢者をはじめ、すべての人が快適で
住みやすい日常生活圏の形成

子ども、教育（652件）

◆子ども支援

- ・子どもたちがのびのび遊べる場所がほしい（60代・東区）
- ・子どもが大人になった時も住み続けて結婚子育てをしたいと思えるまち（20代以下・早良区）

など

ユニバーサルデザイン、健康、福祉（504件）

◆多様性、バリアフリー

- ・多様な人が自分らしく生きられるためのまちづくり（20代以下・南区）
- ・歩道の段差をなくし、自転車やベビーカー、車椅子でも安心して（50代・中央区）
- ・歩くのが楽しいまち（50代・中央区）

◆高齢者、障がい者

- ・老後でも安心して暮らせる福岡市（40代・西区）
- ・高齢者になった時に生活できる場所の選択肢がたくさん持てること（40代・西区）

など

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

環境、自然（158件）

◆環境、自然、緑・公園

- ・再生可能エネルギーや EV の推進（20代以下・城南区）
- ・自然を生かしたまちづくり（30代・西区）
- ・ほどよく都会でほどよく田舎っぽさが残るまち（70代以上・東区）
- ・花や緑に溢れたまち（50代・南区）
- ・幅広い年齢層の憩いの場となる公園（20代以下・中央区）

など

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

防災、都市基盤（161件）

◆防災、道路整備、住宅

- ・災害、有事に備えるまちづくり（50代・中央区）
- ・子供でも老人でも安心して安全に歩ける道路整備（50代・東区）
- ・自転車で移動しやすい道路整備（30代・博多区）
- ・電信柱のないまちづくり（40代・南区）
- ・ひとり身の高齢者が安心して住める住居（50代・東区）
- ・住みたいところに安価で安心して住める（40代・南区）

など

その他

その他（636件）

◆その他

- ・古き良きものを残しつつ進化してほしい（40代・博多区）
- ・自然や食べ物、お祭りなど地域の特性を活かした福岡らしいまちづくり（60代・城南区）
- ・九州全体発展のキーマン（40代・中央区）
- ・福岡都市圏としての成長戦略が必要（60代・早良区）
- ・デジタル技術の活用で、さまざま便利で生産性の高い社会（50代・城南区）
- ・美しい建物を建て並べ、緑豊かな街並みを誇るまちづくり（60代・早良区）
- ・都市部ばかりではなくて郊外の方にも目を向けてほしい（30代・東区）
- ・2050 年以後も持続可能なまちづくり（50代・東区）
- ・大好きな福岡市。老若男女住み良いまちであり続けてほしい（50代・城南区）

など

1. 第1回懇話会の振り返り

2. 市民意見の概要

3. 将来人口推計

4. 福岡市基本計画(素案)

5. 意見交換

3. 将来人口推計

福岡市の将来人口推計

参考資料③ 参照

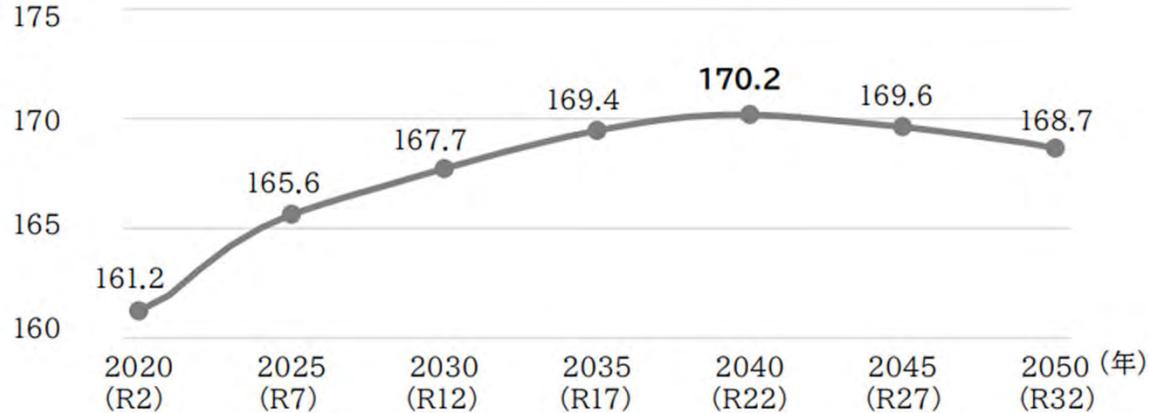
推計期間 2020（令和2）年を基準時点とし、2050（令和32）年まで

推計結果

● 福岡市における総人口のピークは、2040（令和22）年頃で約170万人に達する。

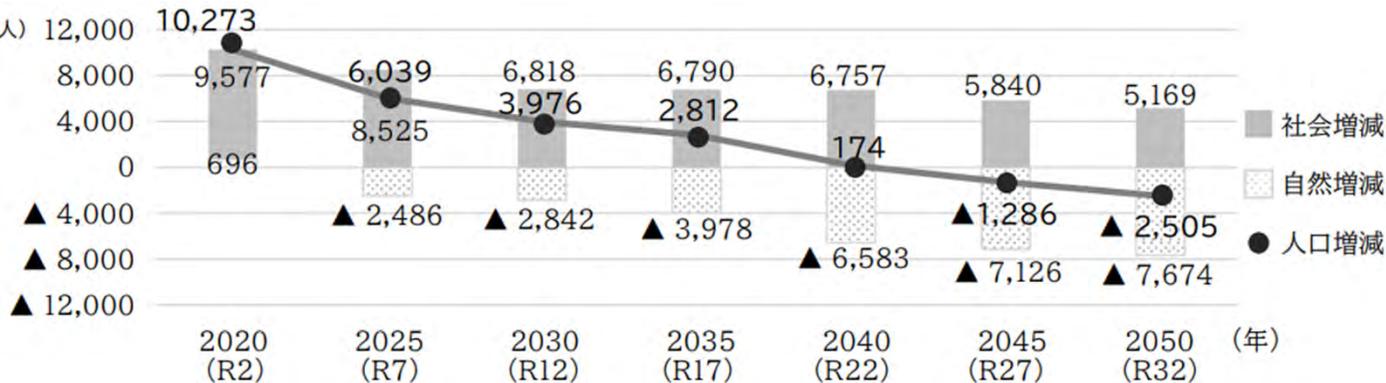
○総人口

(万人)



○人口増減の内訳

(人)



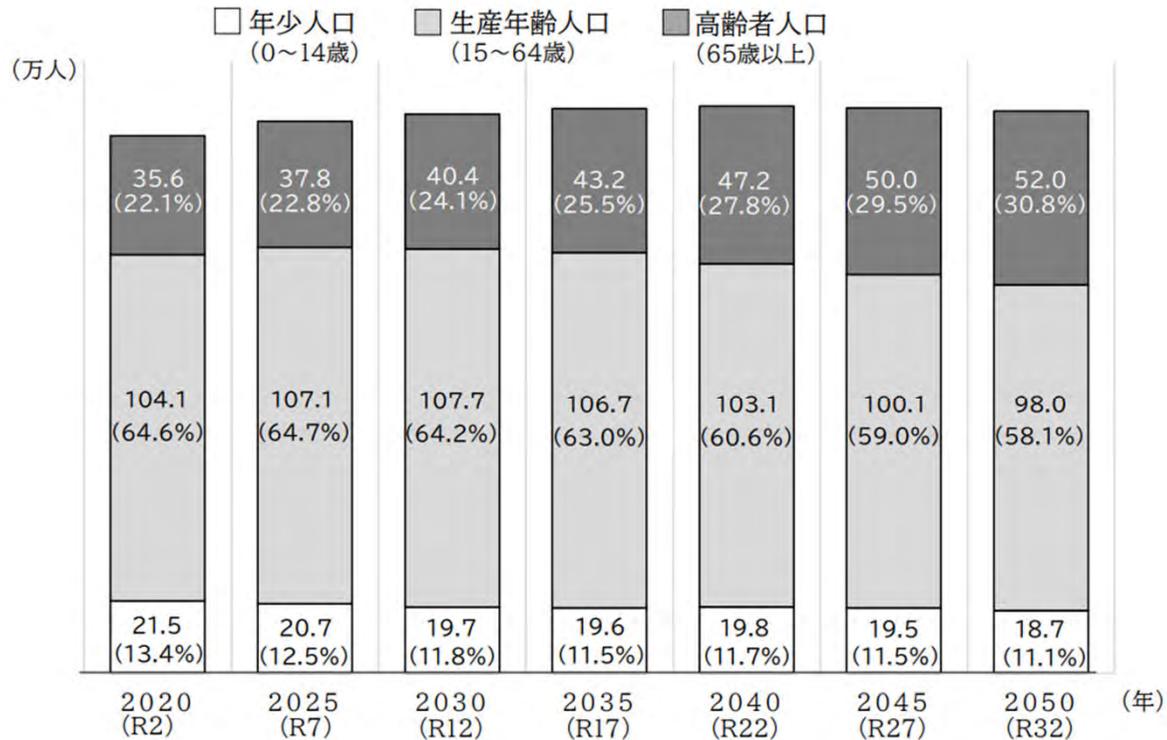
3. 将来人口推計

福岡市の将来人口推計

推計結果

- 年少人口（0～14歳）は、減少傾向にあるが、全国では、2050（令和32）年頃までに約31%の減少が予想される中、福岡市では約17%の減少にとどまる。
- 生産年齢人口（15～64歳）は、増加傾向にあるが、2030（令和12）年頃をピークに減少に転じる。
- 高齢者人口（65歳以上）は、引き続き増加し、2050（令和32）年頃には約31%に達するが、その後、減少に転じる。

○年齢階層別人口



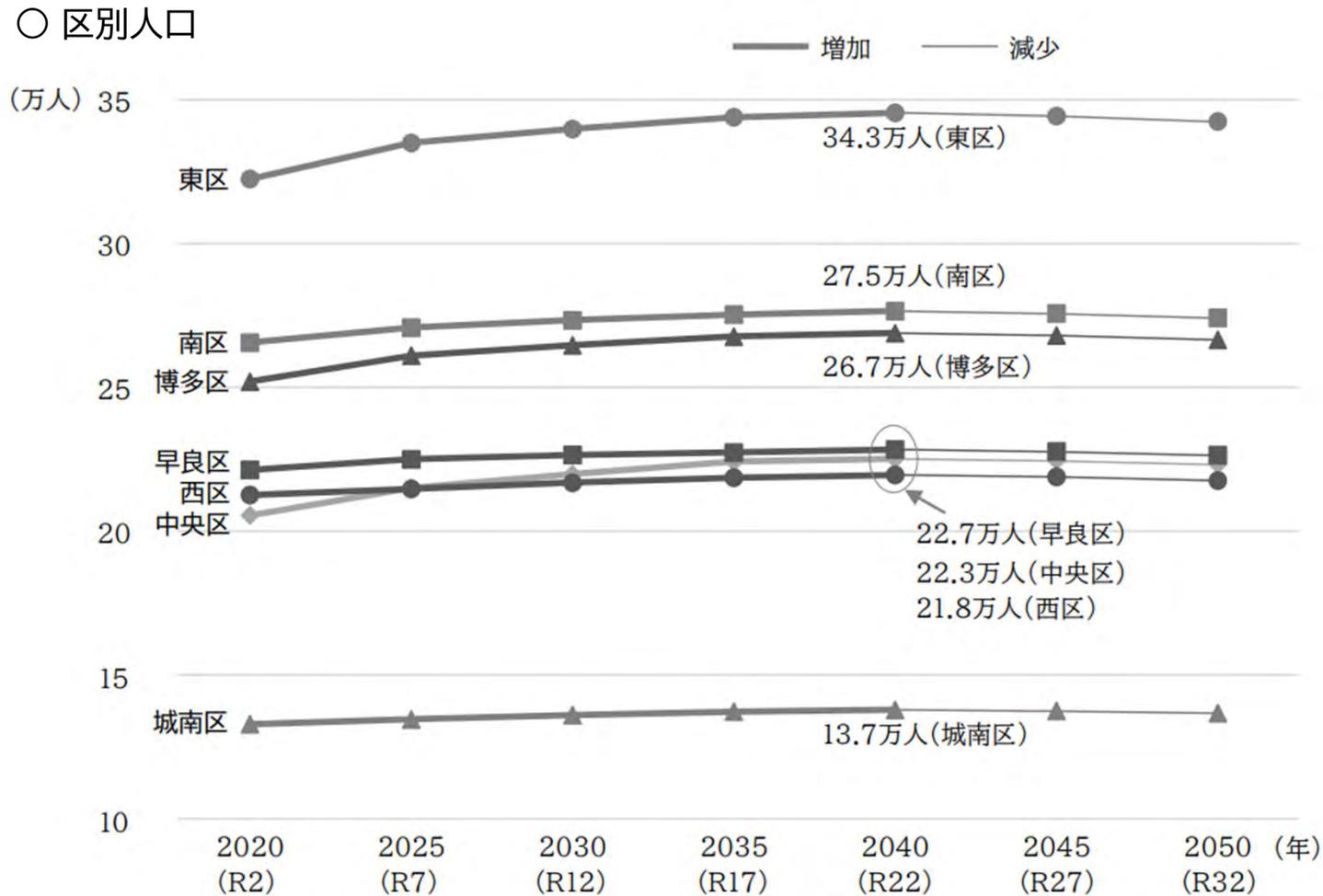
(注) 2020(R2)については、不詳補完値による集計(年齢不詳を人口構成をもとに按分)

3. 将来人口推計

福岡市の将来人口推計

推計結果

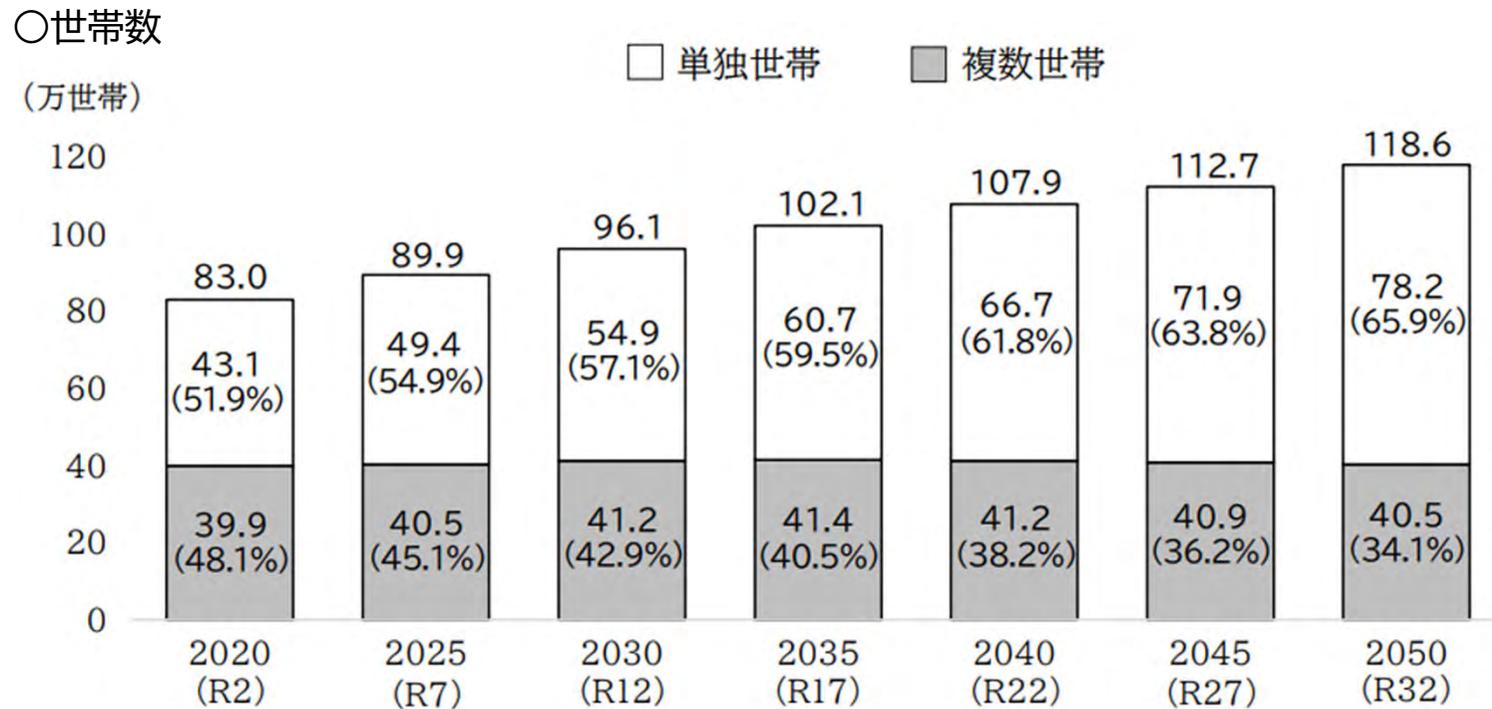
● 区別人口は、総人口のピークである2040（令和22）年以降は減少に転じる。



福岡市の将来人口推計

推計結果

● 世帯数は、単独世帯の増加が顕著となり、2040（令和22）年頃には6割を超える



1. 第1回懇話会の振り返り

2. 市民意見の概要

3. 将来人口推計

4. 福岡市基本計画(素案)

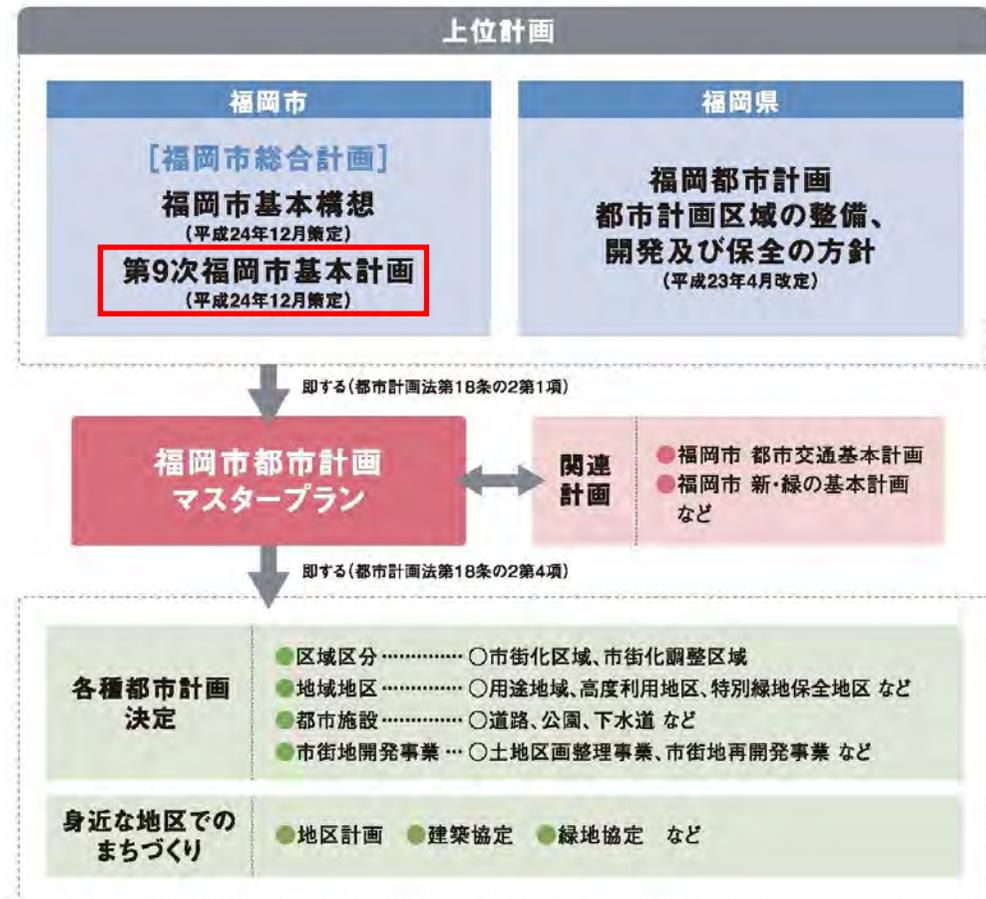
5. 意見交換

都市計画マスタープランの役割・位置づけ（第1回懇話会資料抜粋）

- 福岡市基本計画は、基本構想に掲げる都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画
- 都市計画マスタープランは都市計画法第18条の2に基づく市町村の都市計画に関する基本的な方針で、「福岡市総合計画」や県が定める「福岡都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）」に即して定める

●都市計画マスタープランに係る法改正の経緯

- ・平成4年の都市計画法改正に伴い、市町村毎に都市計画マスタープランを定めることとされた。
- ・平成12年の地方分権一括法の施行を皮切りに、都市計画の決定権限が市町村へ段階的に移譲され、都市計画マスタープランに基づく制度運用が重要となっている。



計画期間・都市経営の基本戦略

参考資料④ 参照

計画期間（目標年次）

2025年度（令和7年度）から2034年度（令和16年度）までの10年間

都市経営の基本戦略

（1）生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を創り出す

福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動を呼び込むことで都市が成長し、その成長の果実によるさらに生活の質を高めていくという好循環を持続可能なものとしていく。

（2）多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる

様々な人達が出会い、交流してきた地理的・歴史的な背景や、大学などの高度な教育・研究機能の集積など、福岡市の個性の強みを活かすことにより、多様な人材が育ち、国内外から集い、互いに交流しながら、誰もが様々な分野で将来に向かってチャレンジできる環境をつくる。

（3）福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

生活圈・経済圏が一体化した福岡都市圏では、これまで交通、水、医療・福祉、環境、消防などの都市圏に共通する課題と一緒に取り組んできた。今後も連携を一層深めるとともに、九州・日本・アジアとの関係においても、広域的な役割を担っていく。

分野別目標

基本構想 都市像	基本計画 分野別目標		施策
<ul style="list-style-type: none"> ●自律した市民が 支え合い心豊かに 生きる都市 ●自然と共生する 持続可能で生活の 質の高い都市 	目標 1	一人ひとりが 心豊かに暮らし、 自分らしく輝いている	1-1 多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進 1-2 一人ひとりが健やかで心豊かに暮らせる社会づくり 1-3 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実
	目標 2	すべての子ども・若者が 夢を描きながら健やかに 成長している	2-1 子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり 2-2 すべての子どもや若者が安心して暮らし、成長できる社会づくり 2-3 自ら学び続け、他社を尊重し、協働できる子どもの育成 2-4 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成
	目標 3	地域の人々がつながり、 支え合い、安全・安心に 暮らしている	3-1 つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化 3-2 生活利便性が確保された地域のまちづくり 3-3 安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり 3-4 日常生活における安全・安心の確保と地域福祉の推進
	目標 4	人と自然が共生し、 身近に潤いと安らぎが 感じられる	4-1 持続可能で未来につながる脱炭素社会の実現 4-2 循環経済の確立に向けた資源循環等の推進 4-3 都市と自然が調和したコンパクトで個性豊かなまちづくり 4-4 花や緑などによる潤いや安らぎを感じるまちづくり

分野別目標

基本構想 都市像	基本計画 分野別目標		施策
<ul style="list-style-type: none"> ●海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市 ●活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市 	目標 5	磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている	5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進 5-2 交流がビジネスを生むMICE受入環境の形成 5-3 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり
	目標 6	都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている	6-1 都市活力を牽引する都心部の機能強化と魅力向上 6-2 様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり 6-3 公共交通を主軸とした総合交通体系の構築 6-4 成長分野の企業や本社機能の立地の促進
	目標 7	チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している	7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化 7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興 7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり 7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興
	目標 8	アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある	8-1 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり 8-2 国際的なビジネス交流の促進とグローバル人材にも住みやすいまちづくり 8-3 国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致

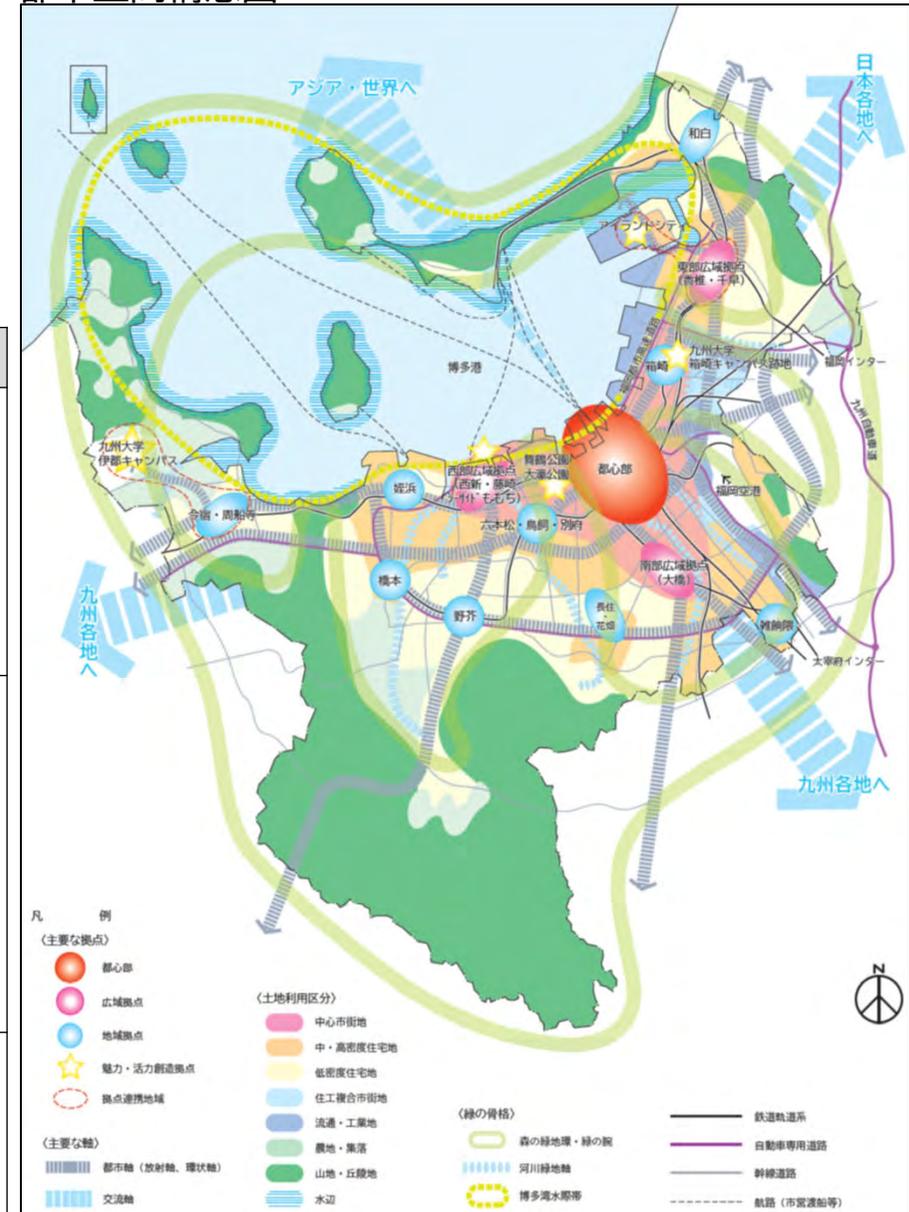
4. 福岡市基本計画（素案）

空間構成目標

- ・都心部を中心にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを楽しんでいる。
- ・エリアの個性や強みが活かされるとともに、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「コンパクトでコントラストのある都市」が実現している。

拠点等	めざす姿
都心部	<ul style="list-style-type: none"> ○都心活力の中心及び国際交流のゲートウェイとして、国際競争力を備えた商業・業務、MICE、文化、港湾など高度な都市機能、広域交通機能が集積 ○水辺や通り、広場には、花や緑、文化芸術などがあり、多様な人と企業が集積・交流
地域の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ○東部・南部・西部の「広域拠点」は、交通結節機能の高さを生かし、都市活力を担いつつ、広範な生活圏域の中心として、商業・業務機能や市民サービス機能など諸機能が集積 ○「地域拠点」は、区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能や市民サービス機能など諸機能が集積
日常生活圏	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校区単位を基本とし、公民館を拠点として、自治協議会を中心に地域コミュニティが形成され、市民の良好な居住環境と日常生活に必要な基本的な生活利便性が確保

都市空間構想図



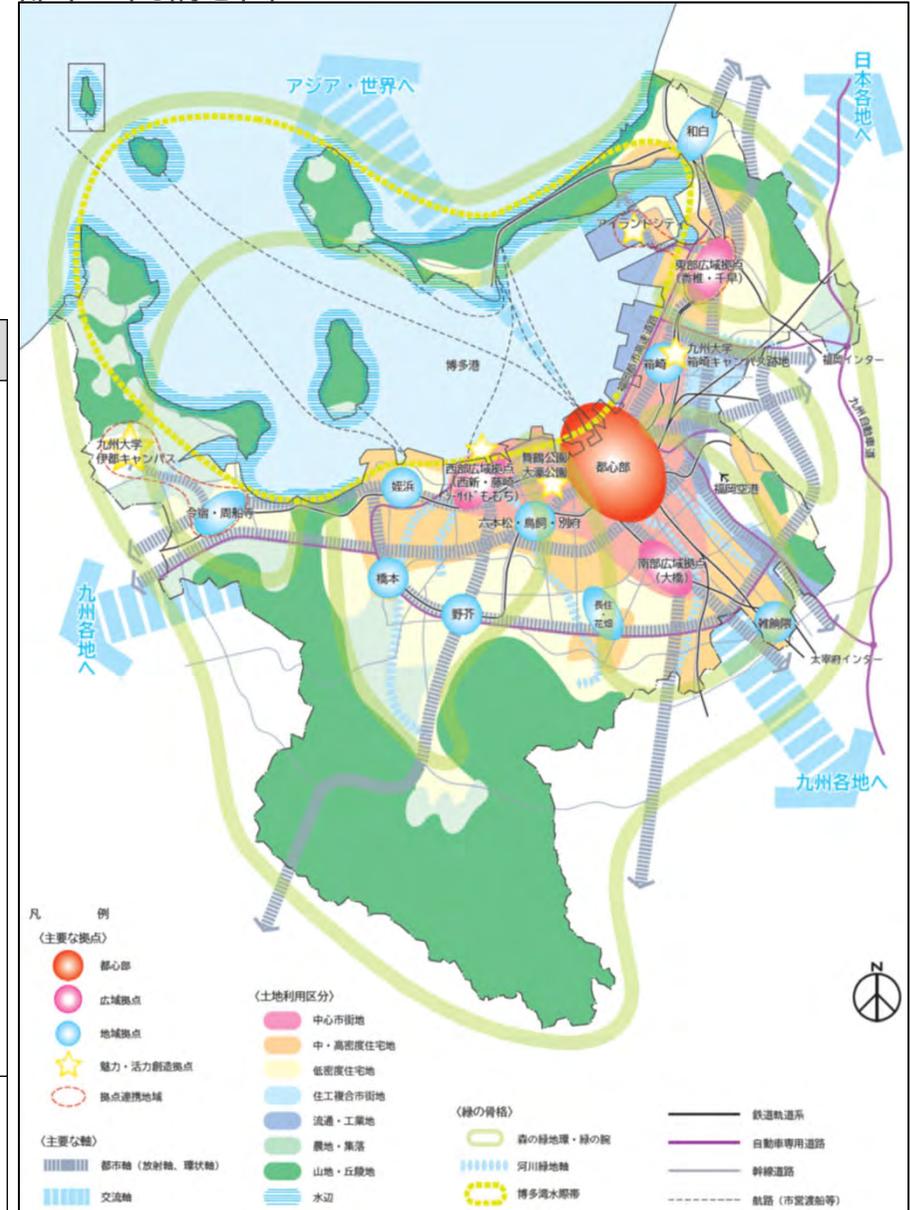
4. 福岡市基本計画（素案）

空間構成目標

- ・都心部を中心にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを楽しんでいる。
- ・エリアの個性や強みが活かされるとともに、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「コンパクトでコントラストのある都市」が実現している。

拠点等	めざす姿
魅力・活力 創造拠点	○アイランドシティは、豊かな自然に恵まれ、環境に配慮した先進的モデル都市及びコンテナターミナルと一体となった国際物流拠点を形成
	○九州大学箱崎キャンパス跡地は、多様な都市機能やゆとりある空間、先端技術の導入などにより、快適で質の高いライフスタイルを創出
	○舞鶴公園・大濠公園地区は、都心部に近接した貴重な緑地空間として、市民の憩いの場となり、歴史資源を生かし、文化芸術と融合した観光・交流拠点を形成
	○シーサイドももちは、情報関連産業の集積拠点となり、文化・エンターテインメントなどの既存資源を活かした観光・MICEの拠点を形成
	○九州大学伊都キャンパス及びその周辺は、九州大学学術研究都市の核として、新たな知を創造、発信する研究開発拠点となり、新たなビジネスやイノベーションの創出拠点を形成
交通 ネットワーク	○陸海空の広域交通ネットワークを備える都心部を中心に、それぞれの拠点間は公共交通機関でネットワークされ、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保

都市空間構想図



1. 第1回懇話会の振り返り

2. 市民意見の概要

3. 将来人口推計

4. 福岡市基本計画(素案)

5. 意見交換

○構成

全体構想

- 基本理念と基本方向
- 取組みの基本的な方針
- 将来の都市構造
- 部門別の基本的な方針
 - ・土地利用 ・交通体系 ・みどり ・景観
 - ・住宅市街地 ・環境都市 ・防災 ・その他

区別構想

- 東区 ○博多区 ○中央区 ○南区
- 城南区 ○早良区 ○西区

地域別構想 “都心部編”

- 対象エリア
- まちづくりの方向性 など

○基本理念と基本方向

豊かな自然環境と充実した都市機能を備えたコンパクトで持続可能な都市をめざして

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

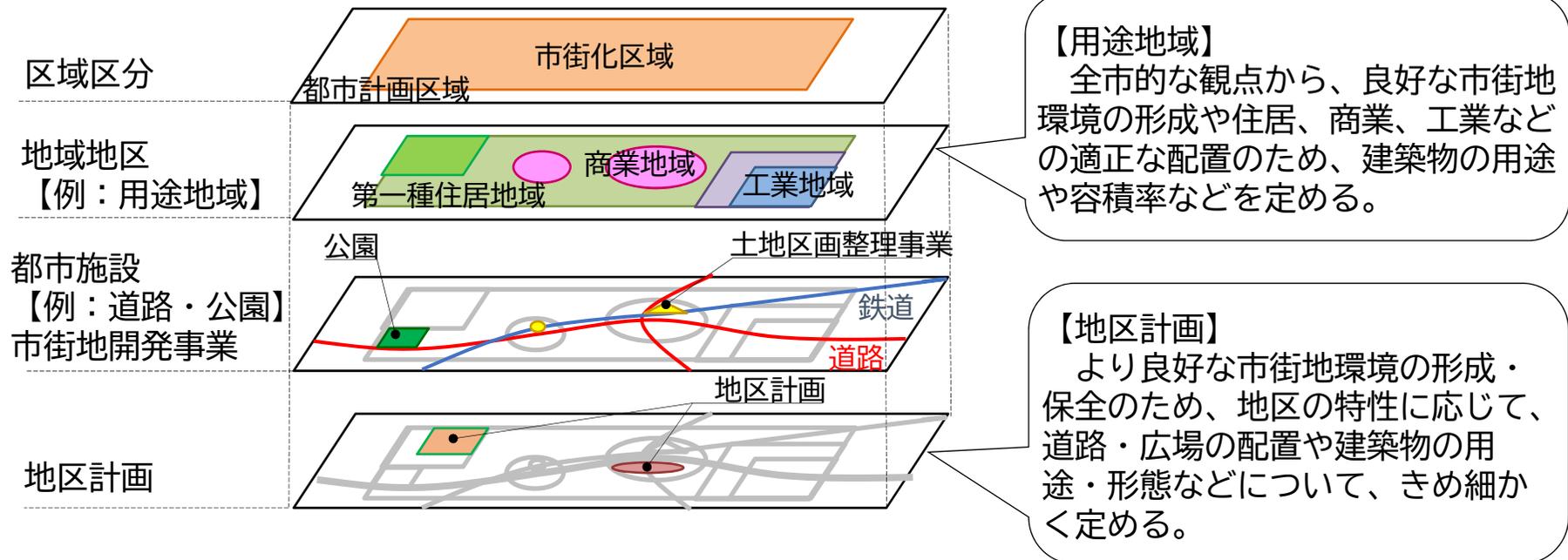
安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

○都市計画マスタープランの役割

- 都市計画に係わる施策を総合的かつ体系的に展開していくための指針
都市づくりの基本的な考え方、土地利用、道路・公園などの都市基盤施設などの方針を明らかにし、具体的な都市計画を定める際の総合的な指針とする。
- 地域主体による地域の特性や課題に応じたまちづくりに向けての基礎
地域と行政の共働によるまちづくりの推進に向けて、地域の特性に応じたルールづくり（地区計画など）に活用する。

【参考】都市計画制度の構造



○構成

全体構想

- 基本理念と基本方向
- 取組みの基本的な方針
- 将来の都市構造
- 部門別の基本的な方針
 - ・土地利用 ・交通体系 ・みどり ・景観
 - ・住宅市街地 ・環境都市 ・防災 ・その他

区別構想

- 東区 ○博多区 ○中央区 ○南区
- 城南区 ○早良区 ○西区

地域別構想 “都心部編”

- 対象エリア
- まちづくりの方向性 など

○基本理念と基本方向

豊かな自然環境と充実した都市機能を備えたコンパクトで持続可能な都市をめざして

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

意見交換 1

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

意見交換 2

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

意見交換 3

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

広域交流のゲートウェイ（第1回懇話会資料抜粋）

●福岡空港では滑走路の増設やターミナルの拡張、博多駅では乗継利便性の向上や交通結節機能の強化を行うなど、アジアのゲートウェイとして、広域交通の機能強化を進めている

○ 福岡空港の機能強化

- ・国内線ターミナルビルの再整備〔R2.8開業〕
平行誘導路の二重化に合わせ、国内線ターミナルビル(バスラウンジ・展望デッキなど)の再整備を実施
- ・滑走路増設〔～R6年度〕
将来の航空需要に適切に対応するため、国際線スポットの増設とあわせて、滑走路の増設工事を進めている



（福岡空港の機能強化）

○ 博多駅筑紫口の駅前広場再整備〔R4.8完成〕

- ・乗継利便性の向上や交通結節機能の強化、回遊性の向上等のため、シェルターやタクシー専用の乗降場の整備、歩道の拡幅などの再整備を実施



（博多駅筑紫口の再整備）

○ クルーズ船受入機能強化 〔中央心頭西側岸壁整備(H30.9供用)〕

- ・大型クルーズ船の2隻同時着岸や世界最大級のクルーズ船を受け入れるため中央心頭の岸壁延伸工事を実施



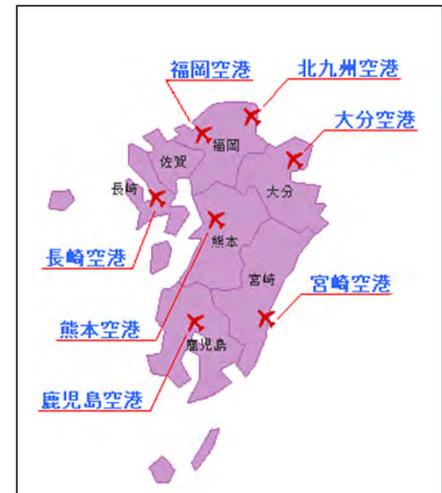
（クルーズ船受入機能強化）

各空港の利用・就航状況

●九州管内のうち福岡空港の着陸回数が約4割、乗降客数が約5割を占める

○九州管内空港の着陸階数及び乗降客数（令和4年）

	着陸回数(回)			乗降客数(人)		
	国際線	国内線	計	国際線	国内線	計
福岡空港	7,731	71,756	79,487	2,259,514	15,708,402	17,967,916
北九州空港	253	8,013	8,266	2,131	849,256	851,387
長崎空港	3	15,788	15,791	126	2,572,945	2,573,071
熊本空港	69	21,278	21,347	18,894	2,623,904	2,642,798
大分空港	6	13,882	13,888	10	1,469,799	1,469,809
宮崎空港	22	21,438	21,460	6,485	2,568,026	2,574,511
鹿児島空港	57	32,671	32,728	11,302	4,667,519	4,678,821
佐賀空港	0	3,841	3,841	0	345,955	345,955



出典：空港管理状況調書

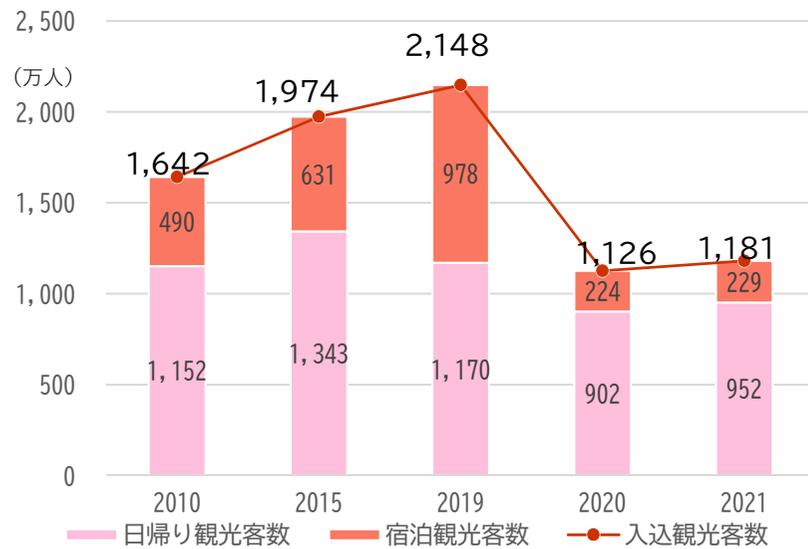
○九州管内空港の国際線就航状況（2023年夏ダイヤ時点）（国土交通省）

福岡空港 12都市 294便/週（シンガポール、バンコク、ソウル、釜山、香港、グアムなど）
 熊本空港 1都市 7便/週（ソウル）

広域交流のゲートウェイ

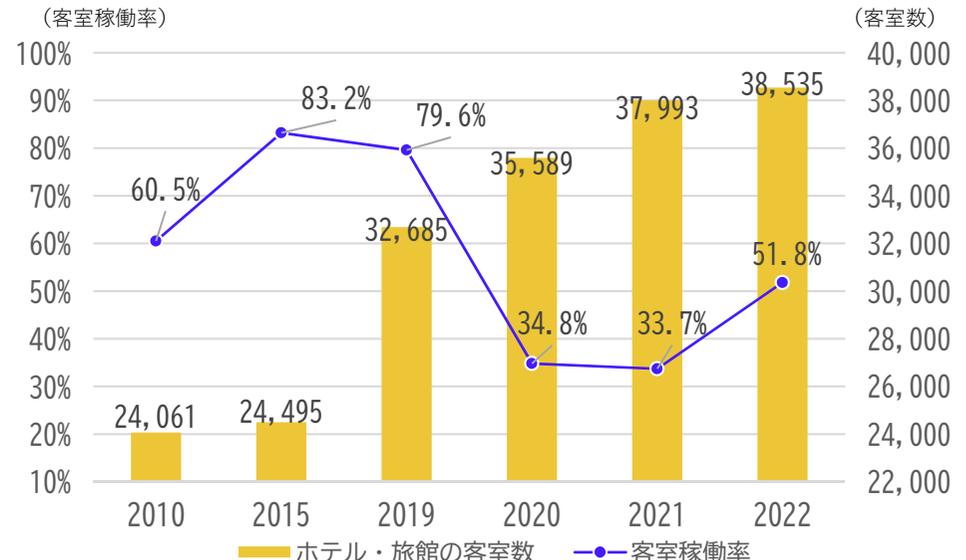
- コロナの影響を除き、観光客数は増加傾向にあり、特に宿泊観光客が増加している
- ホテルの客室数は2021/2010比で1.57倍に増加している

○入込観光客数の推移



出典：福岡県観光入込客推計調査

○ホテル・旅客の客室数及び客室稼働率の推移



出典：宿泊旅行統計調査、福岡市内旅館施設一覧表、福岡市税務統計

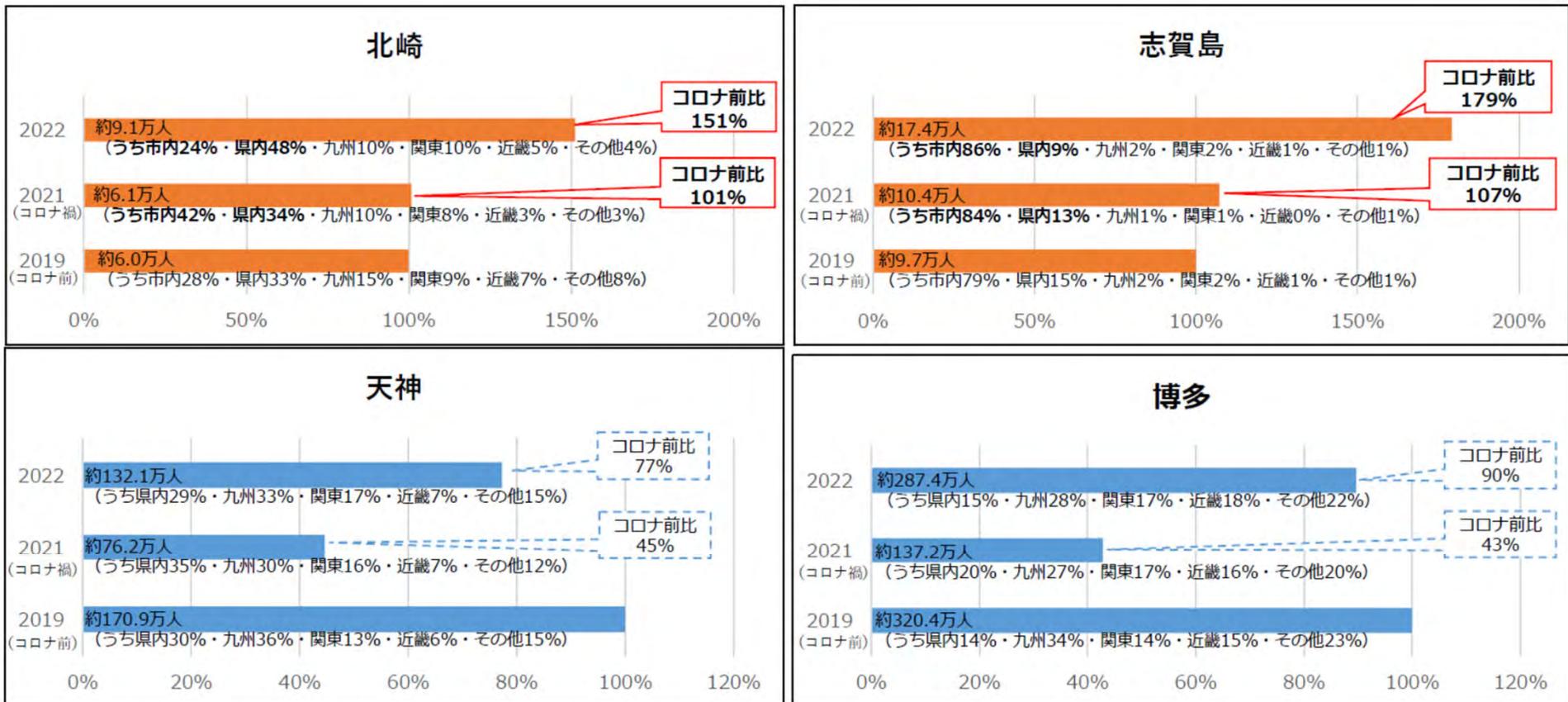
○福岡市市内の主要な観光施設の入込状況(2021)

施設名	人数 (人)	施設名	人数 (人)
JR博多シティ	47,610,000	ベイサイドプレイス博多	1,000,000
キャナルシティ博多	9,940,000	国営海の中道海浜公園	622,041
マリノアシティ福岡	3,830,000	マリンワールド海の中道	593,939
博多リバレイン	2,536,000	福岡市動植物園	573,688
(株)マリゾン	1,952,250	福岡PayPayドーム	473,243

出典：福岡市観光統計

広域交流のゲートウェイ

- コロナ以前と比較し、郊外エリアの北崎、志賀島への来訪者が増加している
- 移動制限の緩和により、2020年3月以降は天神・博多駅の来訪者も回復傾向を示している



※データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」（auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計した推計値）
 ※抽出条件：（対象期間）平日土日祝含む全期間（対象者）7～24時の時間帯に60分以上滞在した方の総数（2019年1月～4月までのデータは抽出できないため、各年5月以降のデータを可視化）
 ※抽出範囲：北崎（夫婦岩～ジハンゲンまでの海沿い周辺）・志賀島（志賀島渡船場～志賀海神社周辺）・天神（西鉄福岡駅周辺）・博多（博多駅周辺）
 ※来訪者の定義（北崎・志賀島）：各地点から半径約10km以上の地域からの来訪者（生活圏外の地域：市内（生活圏を除く）・県内（市内を除く）・九州、沖縄（福岡県を除く）・関東・近畿・その他）
 ※来訪者の定義（天神・博多）：各地点から半径約40km以上の地域からの来訪者（概ね福岡都市圏外の地域：県内（都市圏を除く）・九州、沖縄（福岡県を除く）・関東・近畿・その他）

魅力・活力創造拠点における取組み

●地域特性に応じた都市機能の集積が図られ、活力を生み出す拠点づくりが進められている

○ 舞鶴公園・大濠公園地区（セントラルパーク構想・基本計画）

大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として、また、歴史、芸術文化、観光の発信拠点として、公園そのものが広大なミュージアム空間となるような公園づくりを進める



■エリアの整備イメージ



○ アイランドシティ

博多港の港湾機能強化に伴い誕生した都市空間を活用して、新しい「みなとづくり」「まちづくり」を行い、福岡市の将来をリードする先進的モデル都市づくりを進める



みなとづくりエリア

平成15年度に供用開始した国際コンテナターミナルは現在、博多港の国際海上コンテナ取扱個数の約6割を扱っている。また、大規模な物流施設などの立地も進んでいる。

■国際コンテナターミナル

■物流施設

■青果市場 (ベジフルスタジアム)

まちづくりエリア

平成17年度にまちびらきを行い、こども病院や総合体育館、商業・宿泊施設などの多様な都市機能の集積が進むとともに、緑豊かな住環境や教育環境が評価され、現在、1万4千人以上が生活。

■まちづくりエリア

■こども病院

■総合体育館

豊かな自然を活かした取組み

●志賀島・北崎地区の海辺の魅力をさらに高めていくことで、地域の観光振興・活性化を推進

○ Fukuoka EAST&WEST COAST



・豊かな自然環境と調和した道づくり
(無電柱化、歩道の美装化)

志賀島



整備前



道路整備後のイメージ

北崎



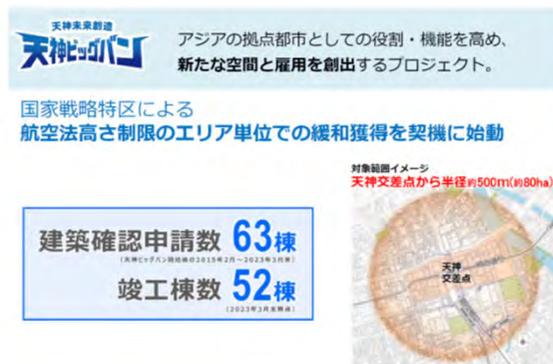
・海辺の観光周遊コースの形成



都心部等のまちづくりの推進（第1回懇話会資料抜粋）

- 航空法高さ制限により、多くの更新期を迎えたビルは建替えが進まず、建物の耐震化等の面で課題があったが、航空法高さ制限の特例承認や市独自の規制緩和により、耐震性の高い先進的なビルへの建替えが進んでいる
- 建替えにあたっては、地区計画等を活用し、オープンスペースや緑地の創出など、快適でゆとりある都市空間や質の高い魅力ある市街地環境の形成を推進している

○ 天神ビッグバン(2015.2～)



天神ビッグバン
アジアの拠点都市としての役割・機能高め、
新たな空間と雇用を創出するプロジェクト。

国家戦略特区による
航空法高さ制限のエリア単位での緩和獲得を契機に始動

対象範囲イメージ
天神交差点から半径500m(約80ha)

建築確認申請数 **63棟**
[2015年2月～2022年3月]

竣工棟数 **52棟**
[2023年3月末時点]

○ オープンスペースや緑地の創出等



(福岡大名ガーデンシティ)



(水上公園)

○ 博多コネクティッド(2019.1～)



博多コネクティッド
九州の陸の玄関口である博多駅の活力と賑わいを
さらに周辺につなげていくプロジェクト。
交通基盤の拡充とあわせ、規制緩和などにより
耐震性の高い先進的なビルへの建替えを促進し、
周辺地区との回遊性や都市機能の向上を図る。

対象範囲イメージ
博多駅から半径約500m(約80ha)

建築確認申請数 **25棟**
[2019年1月～2023年3月末]

竣工棟数 **18棟**
[2023年3月末時点]



(博多イーストテラス)



(天神ビジネスセンター)



歴史資源等を活かした都市景観の形成（第1回懇話会資料抜粋）

- 歴史等を活かした景観形成を推進するため、H28年3月に景観計画に新たに「歴史・伝統ゾーン」を位置づけ、景観形成基準などを定めた
- 博多駅と博多旧市街をつなぎ、博多部の歴史・伝統・文化などを醸し出すまちなみの形成を図るため、承天寺通り地区において都市景観形成地区を指定(R2.3)

■景観計画見直しと都市景観形成地区の拡大



歴史資源等を活かした都市景観の形成

●歴史・伝統のある地区で地域の個性を活かしたまちづくりが進んでいる

歴史・伝統が感じられる魅力的なまちなみ形成を目的に、まちなみづくりのルールを定めている

御供所地区都市景観形成地区

H10.11.30指定
H23.5.26変更

○景観形成基準

9つのエリア毎に建築物等のルールを定めている。

<形態意匠>

- ・建築物の意匠は、寺社群と調和した落ち着いたものとする。
- ・屋根は勾配屋根とし、その勾配は、4/10 以上 5/10 以下を標準とする。

<色彩>

- ・周辺の寺社群や伝統的町家と調和した落ち着いた色彩とし、白色系、灰色系、黒色系、焦げ茶色系、木の色等自然素材の持つ温かみや深みを持ったものを基調とする。

<高さ>

- ・寺社境内の建築物や樹木の高さを考慮するなど、寺社境内からの眺望に十分配慮した高さとする。（エリア毎に12～25mの高さ制限を設定）



笠崎宮地区都市景観形成地区（R6.3月指定）

○景観形成基準

<形態意匠>

- ・歴史景観との調和に配慮した落ち着いたデザインとする。
- ・2階建て以下の建物の屋根は勾配屋根とする。

<色彩>

- ・彩度・明度を抑えた落ち着いた色彩を基調とし、白・灰・黒・茶系統など歴史景観や自然素材等と調和したものとする。

<高さ>

- ・笠崎宮境内から可能な限り目視できないような高さの建物とする。
- ・境内から笠崎宮楼門、本殿に向けての眺望は、地域に根付いた伝統的な風景となっていることから、特に配慮する。

など



市民意見（抜粋）

■企業誘致、雇用創出、働き方

- ・日本で最も新しいビジネスが集まる場所
- ・有力な企業が誘致され、故郷を捨てずに活躍できる環境
- ・理系で勉強した子どもたちが働く場所の充実

■観光、レジャー施設、商業施設

- ・福岡を象徴するランドマークがほしい
- ・商店街は残してほしい

■都心部

- ・誰もが利用できる都会のオアシスみたいな緑多い場所

■国際化、共生

- ・世界の人々が来てよかった、住んでみたいと思えるまち

■文化芸術・スポーツ

- ・音楽やアートなどの芸術が街中で楽しめる
- ・コンサートホール、ライブハウス、大中小の会場
- ・自由に気軽にスポーツを楽しめる施設をたくさん作ってほしい

■交通

- ・市内隅々、交通の不便さの不平等を少しでもなくしていく福岡市
- ・鉄道のネットワークを、もっと充実させてほしい
- ・バスの本数を増やしてほしい
- ・自宅から最寄りの駅までのアクセスが近い
- ・高齢者が「運転しなくてもよい」と思えるような環境づくり
- ・交通機関のタッチ決済を普及させてほしい
- ・公共交通の混雑緩和が必要
- ・市内中心部への交通流量の減少に向けた対策
- ・南区にも地下鉄を通してほしい
- ・地下鉄の姪浜駅と橋本駅を繋げてほしい
- ・ドームや国際会議場へのアクセス
- ・アイランドシティへの交通の便をもっと便利に
- ・空港の国際線に地下鉄で行けるようにしてほしい

福岡市基本計画（素案）

目標5 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている

めざす姿

- ◇自然や歴史、文化芸術、食などの多彩な資源が磨きあげられるとともに、福岡都市圏や九州各都市などと連携し、魅力向上に向けた取組みが行われ、一体的な集客力が高まっています。
- ◇都心に近い舞鶴公園・大濠公園一帯が、市民の憩いの場となるとともに、歴史や文化を活かした観光交流の拠点として機能し、都市の顔として、さらなる魅力の向上に重要な役割を果たしています。
- ◇国内有数のMICE都市として、様々な国際会議が開催されるとともに、スポーツや音楽のイベントなどが盛んに開催されるエンターテインメント都市として、広く認知されています。

目標6 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている

めざす姿

- ◇都心部において、先進的なオフィス、商業施設などの高度な都市機能が充実するとともに、水辺や緑、文化芸術、歴史などによって彩りや潤い、賑わいが溢れる魅力的な都市空間が形成されています。
- ◇都市活力や市民生活の核となる市内の各拠点の特性に応じた都市機能が充実し、さらに各拠点が公共交通ネットワークによって繋がることで、多くの人や企業から選ばれるまちになっています。
- ◇都市の成長を牽引する高付加価値なビジネスの集積などにより、国内外の人材にとって、仕事の選択肢が充実し、「夢が叶うまち」「自己実現できるまち」となっています。

福岡市基本計画（素案）

目標7 チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している

めざす姿

- ◇地場中小企業において、多様な人々がいきいきと働き、特徴ある製品やサービスが生み出されるとともに、農水産物の消費拡大やブランド化が進むなど、**様々な産業で競争力が高まり、地域経済が活性化**しています。
- ◇スタートアップが互いに交流しながら成長し、新たな価値を生み出すなど、**チャレンジする人材が活躍しやすいまち**になっています。
- ◇チャレンジ精神のある**多様な人材や企業が国内外から集積**するとともに、**産学官民の連携**が進み、**様々な社会課題を解決する先進都市**になっています。

目標8 アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある

めざす姿

- ◇**港湾、空港機能が充実し、福岡都市圏、さらには九州全体の国際交流のゲートウェイ**として機能しています。
- ◇多くの地場企業が積極的に海外展開するとともに、**グローバル人材やその家族にも住みやすいまちづくり**が進むことで、海外の企業が数多く立地し、様々なビジネス交流を通して、地域の経済が活性化しています。
- ◇少子高齢化や環境問題に先進的に取り組んできた知識と経験を活かし、世界中で深刻化する社会課題の解決に貢献するとともに、**様々な国際会議の開催都市**として、国際社会において存在感を発揮しています。

第1回懇話会の主な意見（抜粋）

■都心部等のまちづくり

- ・この10年間で、**天神ビッグバン**などの計画が進み、福岡市が躍動する姿を見せている
- ・道路の歩行空間を広げるような、**都市アセットのリ・デザイン**などの視点が必要。

■歴史・文化資源の保全・活用

- ・博多、天神の魅力は歴史の重層性や多様性にあり、**歴史・文化のマネジメント**を考えるべき。
- ・歴史的に価値のある建物が生まれてくるような仕組みづくりが重要。

意見交換 1

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

意見交換 2

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

意見交換 3

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

意見交換 1

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

意見交換 2

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

意見交換 3

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

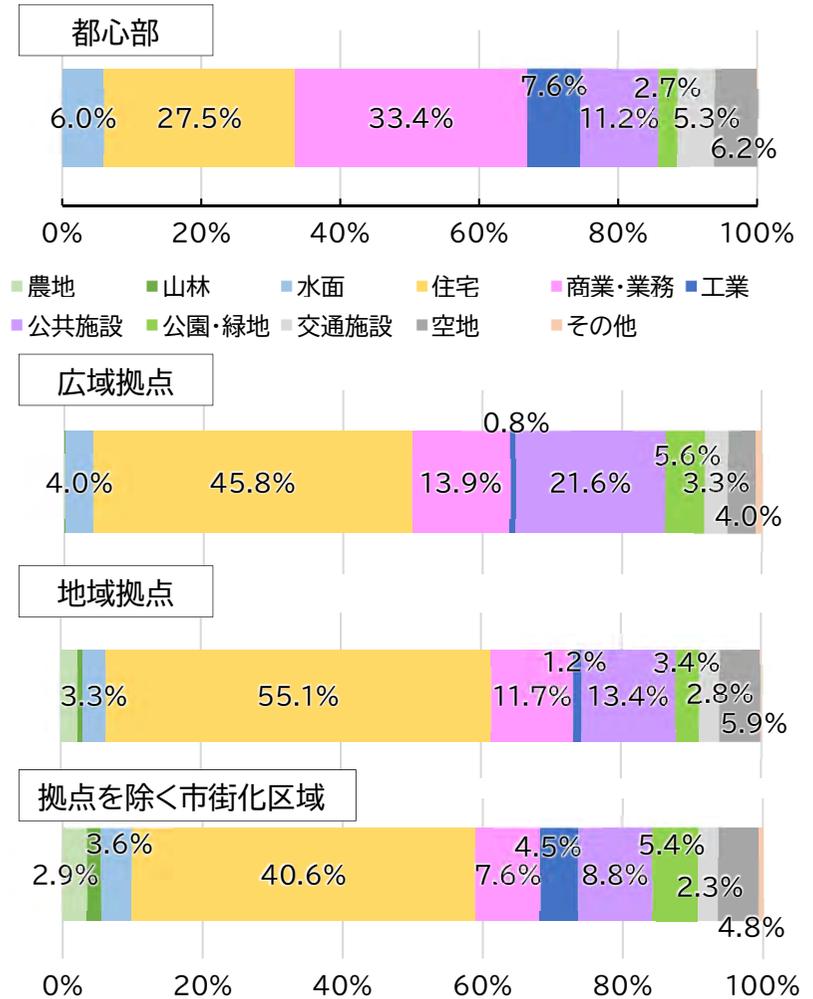
基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

生活サービス施設や土地利用の動向

- 生活サービス施設は他の自治体や政令市に比較して網羅的に配置されている
- 都心部を除き、利便性の高い拠点で住宅・商業・公共の土地利用割合が高い



○エリア別土地利用状況



○各生活サービス施設の徒歩圏(800m)市町村人口カバー率

	福岡市(R2)	政令市	全国平均
病院・診療所(福岡市以外H26)※1	97.6%	91.0%	62.3%
福祉施設(福岡市以外H27)※2	96.2%	90.0%	41.0%
保育所(福岡市以外H27)※3	93.0%	79.8%	43.6%
商業施設(福岡市以外H26)※4	89.8%	77.1%	40.5%

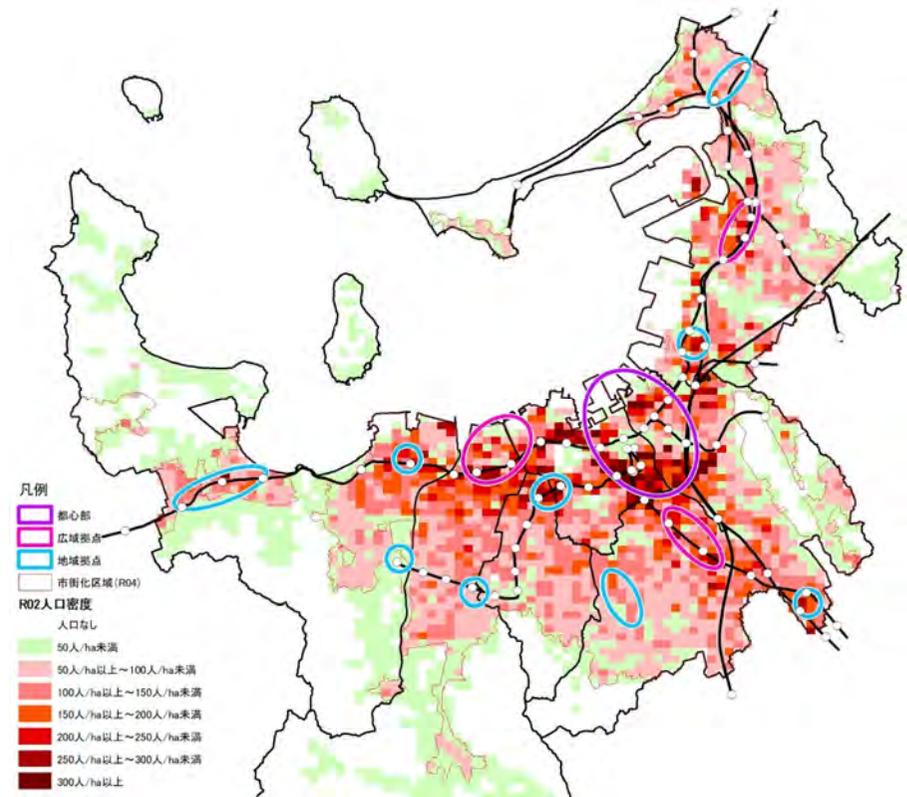
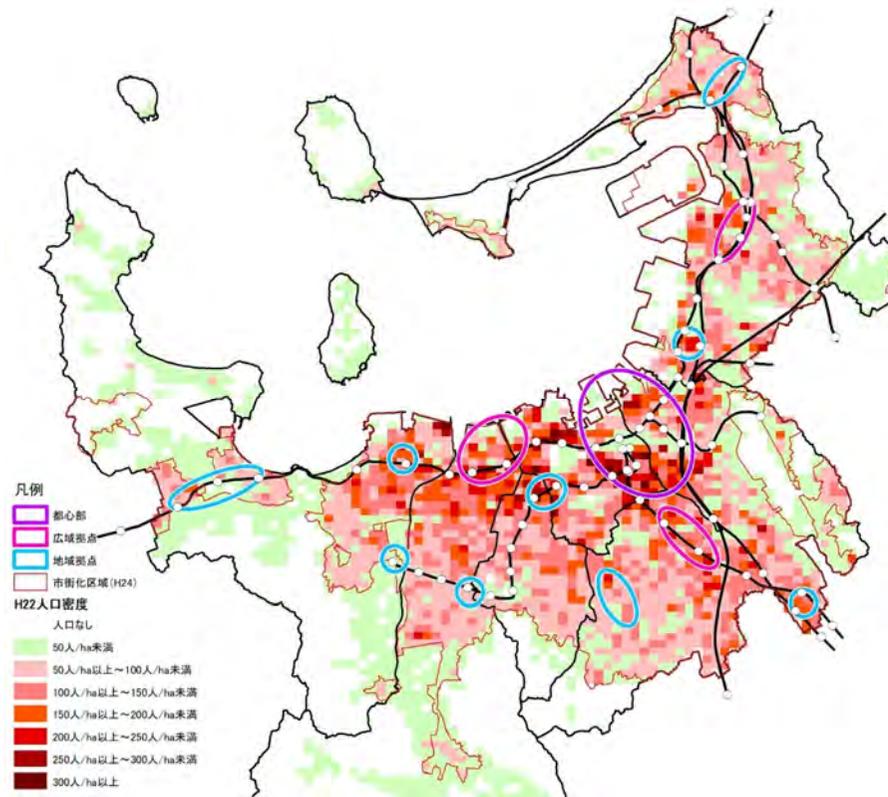
※共通 : 圏域内人口を都市の総人口(保育所は0~4歳)で除して算出
 ※1 : 病院・診療所で内科または外科を有する施設
 ※2 : 通所系・訪問系施設及び小規模多機能施設
 ※3 : 0~4歳人口・福祉施設データ データ
 ※4 : 専門・スーパー、百貨店

人口密度の推移

- 市街化区域のほとんどの範囲で人口50人/ha以上
- 人口100人/ha以上のエリアは拠点や鉄道沿線に集中し、過去10年間でも増加
- 地下鉄空港線、西鉄大牟田線沿線は、他の鉄道沿線や幹線沿道と比較して人口密度が高い

○ 人口密度分布【H22国勢調査】

○ 人口密度分布【R2国勢調査】



拠点機能の強化

●新しいまちづくりや民間活力の活用等で都市基盤の整備や都市機能の集積が進められている

○東部広域拠点における土地区画整理事業



拠点への都市機能の誘導

●新しいまちづくりや民間活力の活用等で都市基盤の整備や都市機能の集積が進められている

○広域拠点への行政・文化機能の集積

・東部広域拠点



・南部広域拠点



・その他官公庁施設



拠点への都市機能の誘導

●新しいまちづくりや民間活力の活用等で都市基盤の整備や都市機能の集積が進められている

○九州大学六本松キャンパス跡地

複合商業施設への科学館移転



司法機関の集約

福岡地方裁判所



高齢者施設・医療施設

住宅型老人ホーム



住宅低層部の賑わい



回遊性の向上

歩行者用通路

○箕子小学校跡地（りすのこスクエア）

- ・慢性期・回復期の病床を備える病院、高齢者施設等を開設
- ・「芝生広場」「体育館」「ハウス」を設け、地域行事やサークル活動等の場として活用
- ・体育館・広場を災害時の避難所・避難場所に活用
- ・中庭やカフェなど地域が日常的に利用できる機能を配置



高齢者施設棟

- RC造 地上13階
- 有料老人ホーム(自立型) 168室
- 1階にテナント(コンビニ)有

病院棟

- RC造 地上9階
- 病院100床(回復期・慢性期病床)、外来、デイケア
- 有料老人ホーム(介護型)65室

体育館棟

- 400㎡(ｽﾏｰｯｸ空間)
- 地域用倉庫(屋内・屋外)
- 固定ステージ、空調等

コインP

- 西側道路 路上駐車対策 (7台)

芝生広場

- 3,000㎡
- 42×62mの空間
- 南側植栽帯に従前からのモニュメント・植栽等を存置

すのこハウス

- 約150㎡(70席)
- ミニキッチン、ガス等

すのこロード

- 幅員3mの歩行者用通路

身近な緑の質を高める空間づくり

●民間のノウハウを活用し、利用者の利便性向上を図るとともに、管理運営面のさらなる向上を目的として、Park-PFI 制度を活用

○ 東平尾公園

- ・都心に近い森の中にある自然地形を活かした公園
- ・全体をインクルーシブとする公園
- ・「Play with」を広める公園
- ・遊びの「わ」が広がる公園
- ・地域と協働する公園

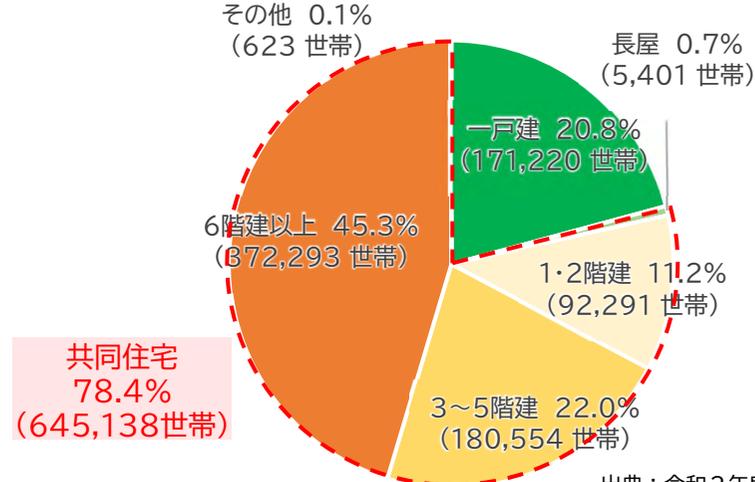


市民の住まいの動向

- 市民の約8割が共同住宅に居住している
- 築40年以上の高経年マンションが2割程度、10年後には約半数が高経年化していく

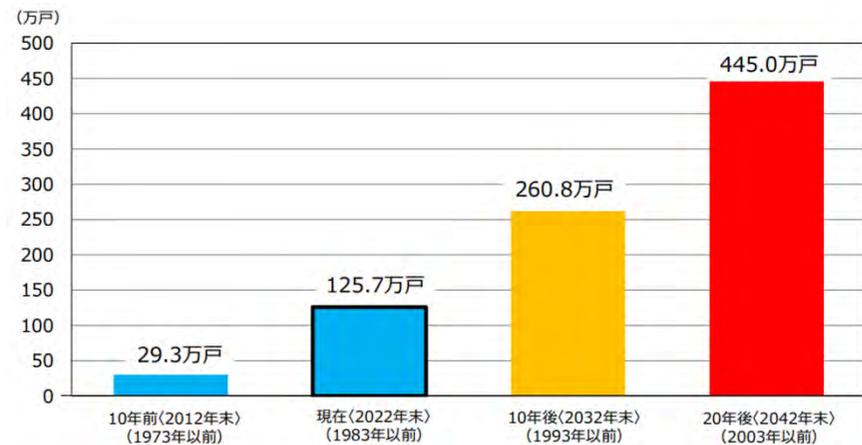
●福岡市内住宅の建て方別一般世帯

総数822,382世帯



出典：令和2年度国勢調査

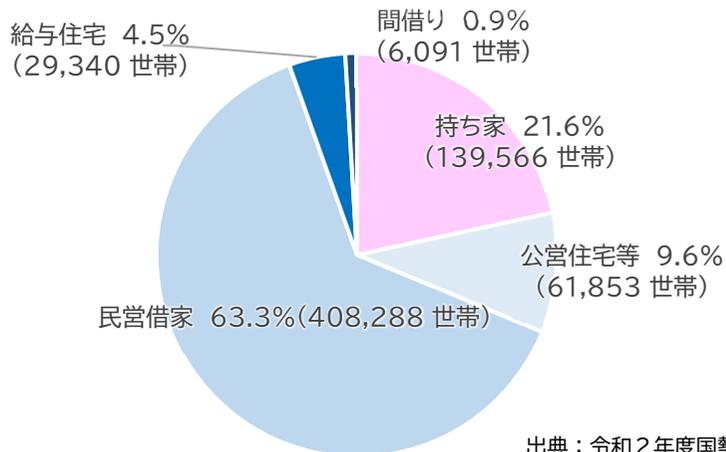
●全国の築40年以上のマンションストック数の推移



※ () 括弧内は築40年以上となるマンションの築年を示す。
※ 建築工事統計等を基に推計した分譲マンションストック戸数及び国土交通省が把握している除却戸数を基に推計。

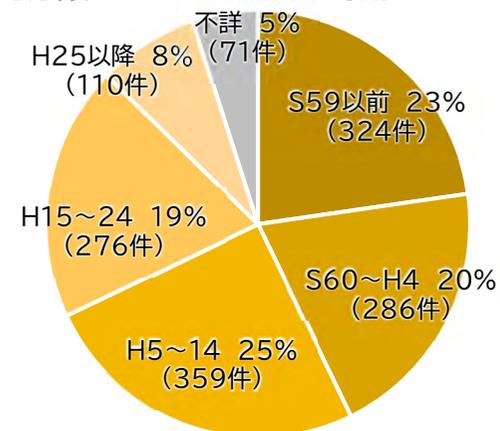
出典：国土交通省

●福岡市内共同住宅の所有関係別一般世帯



出典：令和2年度国勢調査

●福岡市内分譲マンションの竣工時期



出典：令和3年度マンション管理組合実態調査

市民意見（抜粋）

■コミュニティ

- ・高齢者や子育て世帯が孤立せず、安心して暮らせる
地域コミュニティ
- ・公民館を中高生の自習や高齢者の買い物など便利に使えるように

■ユニバーサルデザイン、健康、福祉

- ・多様な人が自分らしく生きられるためのまちづくり
- ・歩道の段差をなくし、自転車やベビーカー、車いすでも安心に
- ・歩くのが楽しいまち
- ・老後でも安心して暮らせる福岡市
- ・高齢者になった時に生活できる場所の選択肢がたくさん
持てること

■子ども支援

- ・子どもたちがのびのび遊べるところがほしい
- ・子どもが大人になったときに住み続けて結婚
子育てをしたいと思えるまち

福岡市基本計画（素案）

目標1 一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている

めざす姿

- ◇年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人の人権が尊重され、市民一人ひとりが互いに多様性を認め合うことで、誰もが自分らしく輝いています。
- ◇市民一人ひとりが、それぞれの知識や経験を活かし、社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加するとともに、文化芸術やスポーツなどを身近に感じ、気軽に楽しみながら、**健やかで心豊かに充実した生活**を送っています。
- ◇支援を必要とする市民が適切な福祉・介護等のサービスを受け、誰もが**安心して、快適に暮ら**しています。

目標2 すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している

めざす姿

- ◇子どもや若者が、自ら学び、人や社会とつながりながら、様々な体験を通じ、生き抜く力を得るとともに、将来を切り拓くことができる、次代を担う人材として成長しています。
- ◇**すべての子どもや若者**が、権利の主体として尊重され、生まれ育った環境に左右されず、夢や希望を叶えられるよう、社会全体で見守られながら、**心身ともに健やかに育**っています。
- ◇子どもを望む人が、**働き方やライフスタイルに関わらず、安心して出産、子育て**しています。

福岡市基本計画（素案）

目標3 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている

めざす姿

- ◇市民が身近な地域の課題やまちづくりに主体的に関わり、地域コミュニティ活動の場となる公共施設をはじめ生活環境が整うことで、人と人がつながり、支え合いながら、元気に安心して暮らしています。
- ◇道路、上下水道、河川、公園などの身近な生活基盤が良好に整備されるとともに、地域における自主防災組織などを中心とした共助の仕組みがつくられ、災害への備えが確保されています。
- ◇地域の防犯体制や、消防・救急医療体制、感染症への危機管理体制が整うとともに、モラルやマナーが大切にされることで、市民が安全で安心して暮らしています。

目標4 人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる

めざす姿

- ◇博多湾や脊振山をはじめとした豊かな自然の恵みを享受し、都市と自然が調和したコンパクトで暮らしやすい都市環境が国内外から高く評価されています。
- ◇美しい街並みや地域の特性を活かした魅力的な景観が形成されるとともに、街中には心地良い花や緑が溢れ、市民が身近に潤いと安らぎを感じています。
- ◇市民や企業の環境意識が高く、脱炭素社会の実現、循環経済の確立、生物多様性の保全・回復に一体的に取り組む持続可能な社会づくりが進んでいます。

第1回懇話会の主な意見（抜粋）

■人口増加・減少

- ・将来的な人口減少に備え、マンション建替え促進などにより、当面の人口増加を鉄道沿線等で受け入れるなどの取組みが必要。
- ・人口の増加と減少をあわせて考えるなど、九州や都市圏における福岡市の位置づけを人口動向などの視点でも整理することが大事。

■少子高齢化

- ・少子化に対応する観点からも、若者が暮らしやすいまちづくりの検討が必要。

■自然資源の保全・活用

- ・これまでの取組みを継承しつつ、今後は緑の質の向上がポイント。

意見交換 1

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

意見交換 2

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

意見交換 3

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

意見交換 1

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

意見交換 2

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

意見交換 3

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

自然と共生する社会の実現（第1回懇話会資料抜粋）

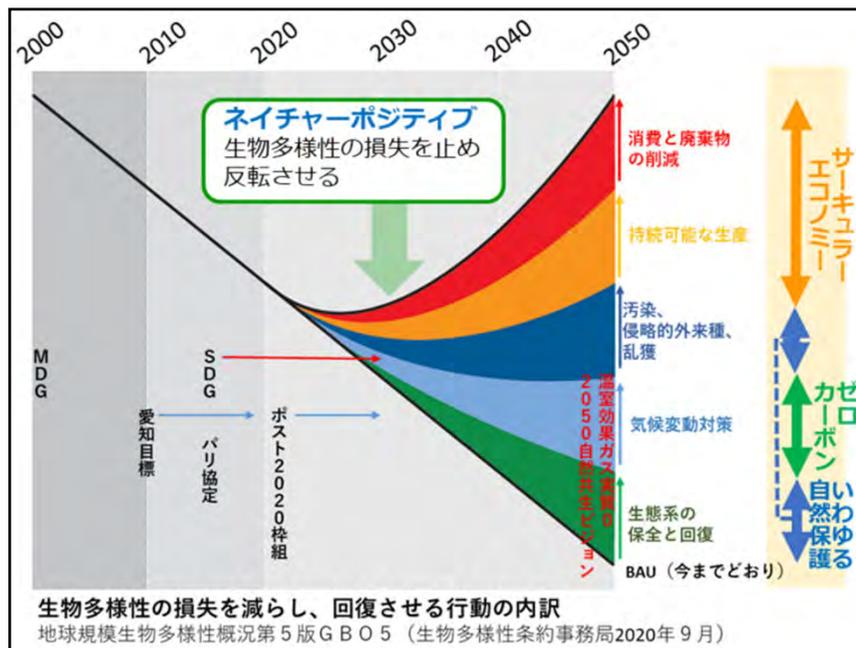
- 生態系から生み出される自然の恵みを将来にわたって享受していくため生物多様性の保全が求められる

【全国】（国の動き）

- ・政府の方針：ネットゼロ、循環経済、ネイチャーポジティブ経済の統合的な実現
- ・2050年ビジョン：自然と共生する社会
- ・2030年に向けた目標：30by30の達成等により、ネイチャーポジティブ（自然再興）を実現

【福岡市】

- ・生物多様性の価値の認識やネイチャーポジティブ経済を広く社会に浸透させ行動につなげていくための取組を推進



サーティー バイ サーティー
30 by 30 ・ 2030年までに陸と海の30%以上を保全する
新たな世界目標

様々な効果

- ・ 気候変動：緩和、適応に貢献
- ・ 災害に強く恵み豊かな自然：
国土の安全保障の基盤
- ・ 花粉媒介者：国内で年3300億円の売り
- ・ 森林の栄養：河川を通して海の生産性を向上
- ・ 観光や交流人口の増加などの地域づくり

(出典：環境省資料)

緑の多面的機能の活用

- 森林の持つ多面的機能をより高めることによって、快適で豊かな市民の生活を持続的に支えることのできる環境を、次世代に残していく

福岡市森づくりの将来像『みんなで守り・楽しみ・活かす都市・ふくおかの森づくり』

基本方針① 毎日の暮らしを快適にし、災害を減らす「安心の森づくり」

基本方針② 身近な自然を体験し学ぶ「遊びの森づくり」

基本方針③ 脊振山系から博多湾まで流域全体で行う「水循環の森づくり」

基本方針④ 気候変動対策と生物多様性保全に応える「環境の森づくり」

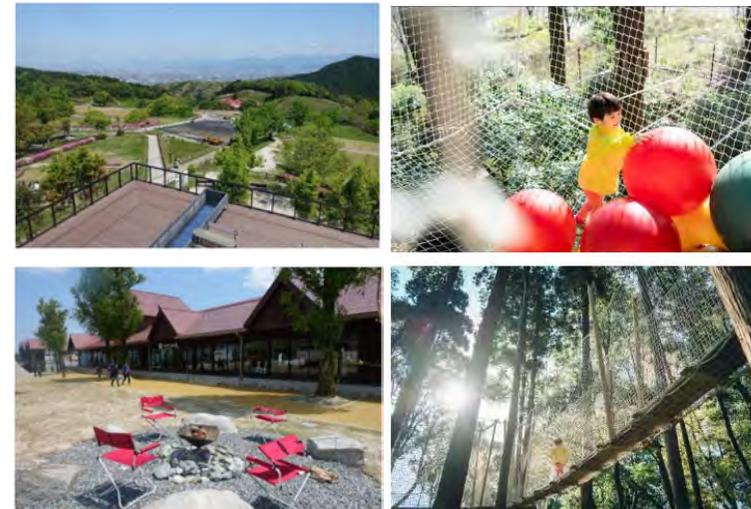
基本方針⑤ 持続的な森の利用と生産を目指す「なりわいの森づくり」



- 油山市民の森&油山牧場リニューアル (リーディングプロジェクト)

- ・油山の資源を活かした魅力向上
- ・都市生活者と自然の新たな関係の提案
- ・農林畜産業に親しむきっかけづくり

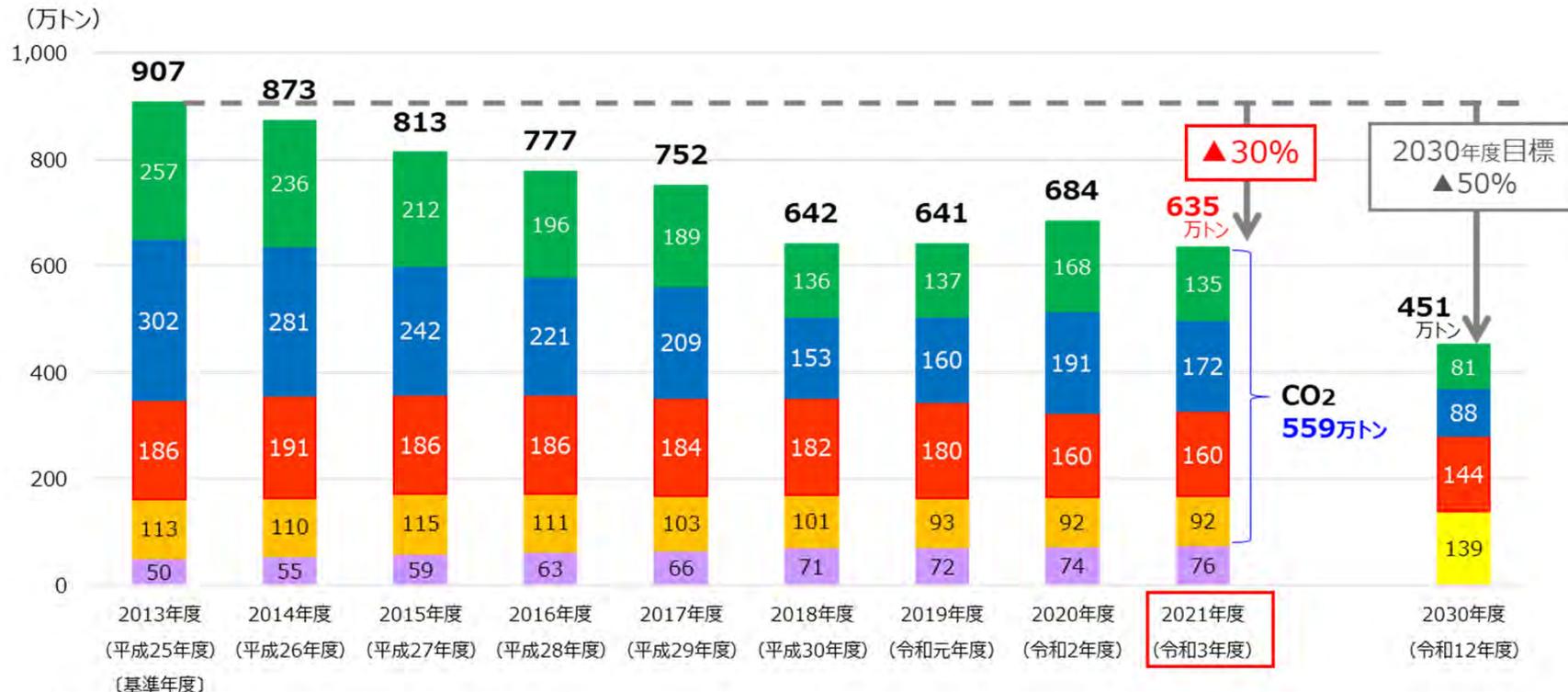
**ABY
BNF**
ABURAYAMA
BACK TO
NATURE
FUKUOKA



脱炭素社会の実現（第1回懇話会資料抜粋）

- 第3次産業が9割を占める産業構造であり、二酸化炭素排出量の割合が、家庭・業務・自動車部門からで約84%を占めることが特徴
- 家庭・業務部門からの排出量のエネルギー種別は、電気由来が約76%、ガス由来が約18%、その他燃料由来が約6%である
- 自動車部門からの排出量の車種別は、貨物車が約54%、乗用車が約46%である

○温室効果ガス排出量の推移



■ 家庭部門 ■ 業務部門 ■ 自動車部門 ■ CO2その他部門 ■ CO2以外のガス ● 電気のCO2排出係数 (kg-CO2/kWh)

※ 四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。

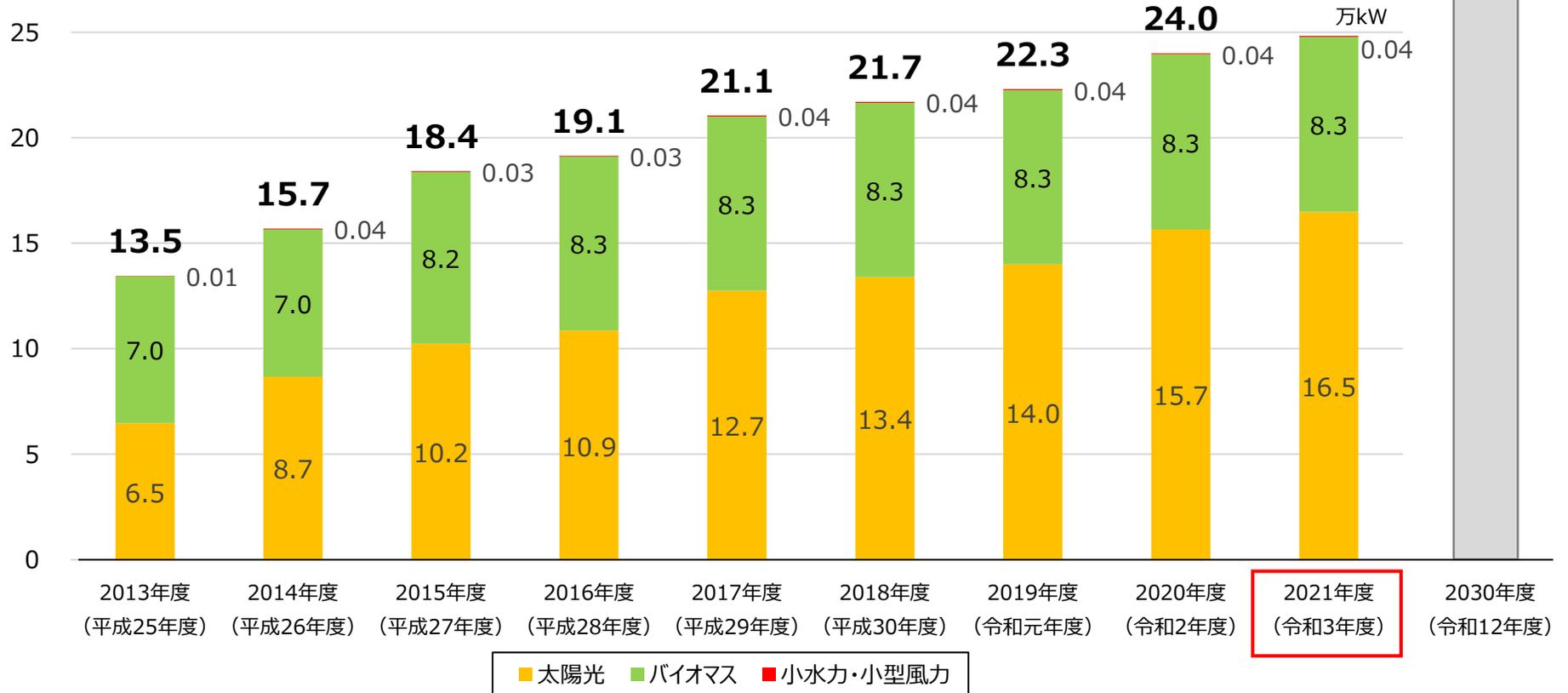
※ 二酸化炭素その他部門：産業部門（農林水産業、建設鉱業、製造業）、運輸部門（鉄道、船舶）、エネルギー転換部門（熱供給事業）、廃棄物部門

脱炭素社会の実現

- 再エネ設備容量は24.8万kWであり、太陽光発電が約7割、バイオマス発電（清掃工場における廃棄物発電が大部分を占める）が約3割を占める
- バイオマスエネルギー等の導入量は横ばいであり、太陽光発電の導入量は伸びている

○再生可能エネルギー設備容量

(万kW)



※ 市有施設には、福岡都市圏南部工場、瑞梅寺浄水場、乙金浄水場を含む

自然災害に対する地域強靱化（第1回懇話会資料抜粋）

●大規模自然災害から市民の生命・財産を守り、持続的な成長を実現するため、自然災害に対する脆弱性を見つめ直し、本市の強靱化を図ることが必要

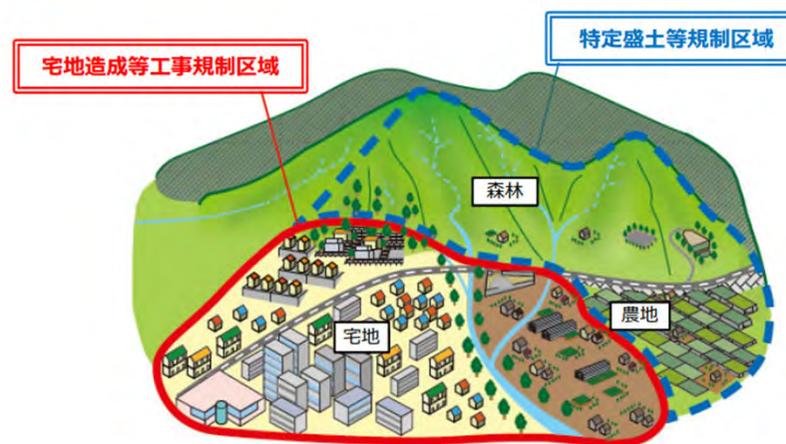
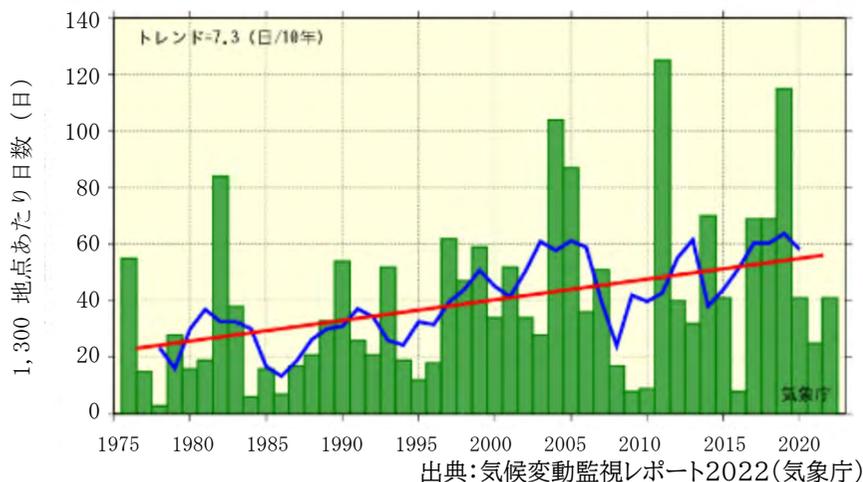
【全国】

- ・特に豪雨災害が激甚化・頻発化し、各地で甚大な被害が増加
- ・東日本大震災の教訓を踏まえ、災害想定の見直しや、「減災」の考え方の浸透
- ・災害ハザードエリアにおける開発抑制

【福岡市】

- ・防災思想・防災知識の普及の啓発や避難対策の充実など、ソフトとハードを組み合わせた取組の強化
- ・市街化調整区域内のハザードエリアにおける開発許可の厳格化
- ・盛土規制法に基づく、宅地以外の土地も対象とした盛土の規制に係る条例改正等を検討中

[全国アメダス]日降水量300mm以上の年間日数



出典:令和5年度第1回盛土に関する専門委員会資料

市民意見（抜粋）

■環境、自然、緑・公園

- ・再生可能エネルギーやEVの推進
- ・自然を活かしたまちづくり
- ・ほどよく都会でほどよく田舎っぽさが残るまち
- ・花や緑に溢れたまち
- ・幅広い年齢層の憩いの場となる公園

■防災、道路整備、住宅

- ・災害、有事に備えるまちづくり
- ・子供でも老人でも安心して安全に歩ける道路整備
- ・自転車で移動しやすい道路整備
- ・電信柱のないまちづくり
- ・独り身の高齢者が安心して住める住居
- ・住みたいところに安価で安心して住める

福岡市基本計画（素案）

目標3 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている

めざす姿

- ◇市民が身近な地域の課題やまちづくりに主体的に関わり、地域コミュニティ活動の場となる公共施設をはじめ生活環境が整うことで、人と人がつながり、支え合いながら、元気に安心して暮らしています。
- ◇道路、上下水道、河川、公園などの身近な生活基盤が良好に整備されるとともに、地域における自主防災組織などを中心とした**共助の仕組み**がつくられ、**災害への備えが確保**されています。
- ◇地域の防犯体制や、消防・救急医療体制、感染症への危機管理体制が整うとともに、モラルやマナーが大切にされることで、市民が安全で安心して暮らしています。

目標4 人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる

めざす姿

- ◇博多湾や脊振山をはじめとした**豊かな自然の恵み**を享受し、都市と自然が調和したコンパクトで暮らしやすい都市環境が国内外から高く評価されています。
- ◇美しい街並みや地域の特性を活かした魅力的な景観が形成されるとともに、街中には心地良い花や緑が溢れ、市民が身近に潤いと安らぎを感じています。
- ◇市民や企業の環境意識が高く、脱炭素社会の実現、循環経済の確立、生物多様性の保全・回復に一体的に取り組む**持続可能な社会づくり**が進んでいます。

第1回懇話会の主な意見（抜粋）

■自然資源の保全・活用

- ・生物多様性の観点から、（在来種への配慮など）外来種への対応について検討が必要。

■脱炭素社会の実現

- ・市全体のエネルギー消費量は下がっているが、古い建物は残るため、断熱改修などの誘導が必要。
- ・交通は炭素排出の約3分の1を占めており、交通の更なる効率化が必要。

■安全・安心な暮らし

- ・大雨による内水氾濫等に対し、郊外部の浸水対策や都市内の農地や遊水池の確保などが求められる。
- ・地震について、これまでの取組みを継承して、引き続き、しっかりと取り組んでいく必要がある。
- ・災害におけるレジリエンスの観点では、コミュニティのつながりが重要。

意見交換 1

基本理念1 交流を育み、都市の成長を図る都市づくり

交流

基本方向1 九州・アジアの交流拠点都市の形成

活力

基本方向2 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

意見交換 2

基本理念2 地域の特性を生かし、生活の質を高める都市づくり

活用

基本方向3 都市基盤を活用した地域の核となる拠点機能の強化

快適

基本方向4 高齢者をはじめ、すべての人が快適で住みやすい日常生活圏の形成

意見交換 3

基本理念3 自然環境と共生し、安全・安心な暮らしができる都市づくり

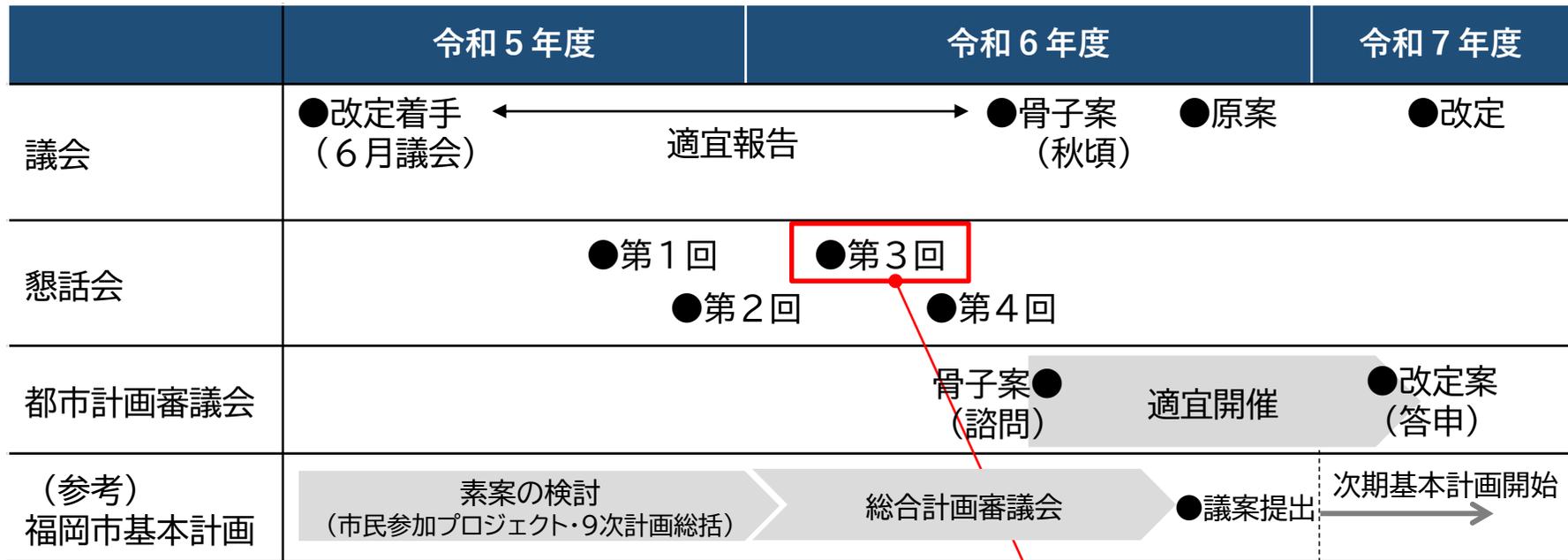
環境

基本方向5 環境負荷の少ない都市空間の形成

安全

基本方向6 災害に強く安全な都市空間の形成

懇話会のスケジュール（予定）



開催	第1回	第2回	第3回	第4回
議事	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの都市づくり ○今後の都市づくりの視点・課題に関する意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ○上位計画などを踏まえ、今後の都市づくりの視点・課題に関する意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ○改定の方角性に関する意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ○骨子案に関する意見交換